

官板
海外新聞別集
上卷

8
子
1



8
12
門イ示カ8
番子
巻 /

海外新聞別集 文久二年閏八月印刷

原本紐編新聞第三百三十三號 日千八百六十二年第四月五日

本
藏
書
印

ル子戦争の事



此迄も西部及北西部の剛勇なる國境の人及兵卒の力よ由
て勝利を得たり東方よて數多の勝利を得たるを海陸の兩
軍共よ兵を合せ力を盡せる故よて陸軍よりを反て海軍の
功を大かりとす島敵必ハテラス及びポルトロエルを攻取
りたるを全く海軍の功と云ふべし又ロノーク島を奪取
りたるを大抵陸軍の功かり然れ共我陸軍をビグベテル

海ト新聞別集 文久二年閏八月印刷

ーインナビュルリンボールスブリツフ等の戦は敗北トデレ
 ンスフィルレの勝利よても此損失を補ふは足らず婆多麥の
 軍とる新英蘭人及び中邦の人を未其勇氣を顯をすの好時
 節を得ず或は好時節あれども其指揮官の未熟と其叛ける
 とよて十分は勇を奮ひ戦ふ能をざれど此の如く敗軍多き
 に至れり此よ及び我將リヲンと四千五百人の兵を以てプ
 ライシ及びマクキルロクダ率ひとる二萬四千人の敵兵を
 敗れり假令レキンントンを終は敵の爲は奪をれとりとて
 も我兵始を力を盡くして之を守り且ベルモントイファイ山
 カムプウルドケツトプレストンビルグミルスプリングド

子ルソン及最新あるピーリジの戦は西部兵の大功を稱揚
 するを要す又我兵よて此勝利を得とるも敵兵とても猶之
 を輕んぜず唯此勝利を我西部兵の得とる所よして臆病か
 る新英蘭人の所爲はあらずと云ひ且新英蘭人ビルリン及
 ボールブリツフよて力を極めて戦ひ國の爲は死しとるの
 状を知るを
 然ども我將ウルソング率ひとる紐約人サンタロサ島よて
 敵兵を撃ち邊威西業人デレーンスフィルレよて勇を奮ひぜ
 子ラールステヘンスタグ率ひとる兵ポルトロエルヘルリー
 よて功を立て新英蘭人及中邦人ローノーク島よて血戦し

よる等の事を以て南方の敵東部及び中部兵士の性質物事は
よ勉強し且其勇猛あることを知らざるを得ず

右の論を儲置き其外南黨及世界内の人の疑を容ざる一事
と云へるを即ニウベル子を攻むる時大將ビュルンサイドが
率ひよる兵の強勇よして且熟練よる事ふり又霧雨を冒
して已が為よ害ある處よ上陸し既よ約せる軍艦未來らざ
れども終夜長路を進みよる時廣大よて畏るべき一些の後
よ陣取せるを見より此時我軍よ大砲隊の助少と雖も進ん
で敵陣よ迫り銃鎗よて之を追散し大砲六十四門を備へよ
る砦を攻取り終よ支ウベウらざる勢を以てニウベル子の

府中よ攻入れり儲ニウベル子よ新英蘭人の攻入りよる如
き速かる勝利も歴史中よ見ざる所あり此兵も勇よして且
心の定よると實よ古く熟練よる兵よ恥るとふくして拿
破崙の戦以後も歐羅巴の數戦中よて此の如き戦を知らず
且昔時アルマを攻めよる戦も此戦よ比すれど小兒の戯の
如し又地上の人多と雖も新英蘭人及中邦人の如く氷及の
勢力を試みよ者ふし我軍船より撃上河よ飛入し時よ水其
腋下よ至り泥深く且雨降りて寒冷堪へざると雖も之を
畏れず進で敵兵を追ひ敵砦五箇所を攻取り終よ凱聲を揚
げてニウベル子府よ入りよる迄一人も後よ残り或も轉墜

せる者ふく各レジメント皆列を正して進みたり

下よ載んとするゼ子ラールビルンサイドが簡略ある告文

よ曰く我兵力を合せて四小時の間戦ひ八炮臺よて大炮四

十六門及三炮臺各小炮六門宛を備ふる者を奪取れり其炮

數を算するよ總て六十四門よ及べり而して大將ビルンサ

イドが率ひたる兵を唯小炮八門を備へり其中多分を船よ

り上げたるホウイッル忽微砲よして此時馬の備へふけれむ已むを得

ず兵士手を以て深泥および沼中を拽き進みたりデキシイ

砦大炮四門を備へり其門を百ポンド其三門を三十二ポ

ンドありトムプソン砦大炮十二門を備へり其二門を百ポ

ンド其十門を三十二ポンドありエルリス砦大炮八門を備

へり其門を八インチフォームビアド一詳のら名蓋又一門を

百ポンド其他の六門を三十二ポンドありレーン砦大炮四

門を備へり其二門を百ポンド其二門を三十二ポンドあり

小炮十八門及各大炮二門を備へたる無名砦二及二里餘の

間連続したるレフレピット未詳を皆我歩兵の銃鎗の鋒先よ

て奪取れり

右の如き大功を唯我兵一萬一千人の働よて歴史中よも未

此の如き強勇を載せたるを見ず

我東部の人西部と互よ競ふて其名譽を失むざるを得べし

抑我國を勇士の國かり若已むを得ずして戦ふ及べる時其勇益大なるをコウプルグ云へる諭言の如し

衆人の心は大戰を焚付んとする爲に火を付け或一事ありて之を吹起さむ速に焰と燃揚るべし

常に此自然の勢を持って正理を守り共和政治の趣意に傷らざる様を防ぐべし又此の如き大業を成すに至らずとも此戦にて我兵士の意皆合一し虐政に堪へざるの心益盛なるを得べし

戦も未耕作せざる地を衝入れたる天より下れる耒耜の如し收納を得んが爲に雑草を皆掘出せり之は由て才智

ある農民も天より授りたる種を此地に蒔くを得べし

ビ子ラールビルンサイドの告文

十一日の朝海軍と共にニウベル子を攻んとする兵船に乗込みたる後ハツテラス海口にて我兵盡く勢を合せたり

海軍將ゴルツホロウをヘムプトンローズに趣くの命を蒙りしれむコモドールロソンに代て海軍を指揮せり

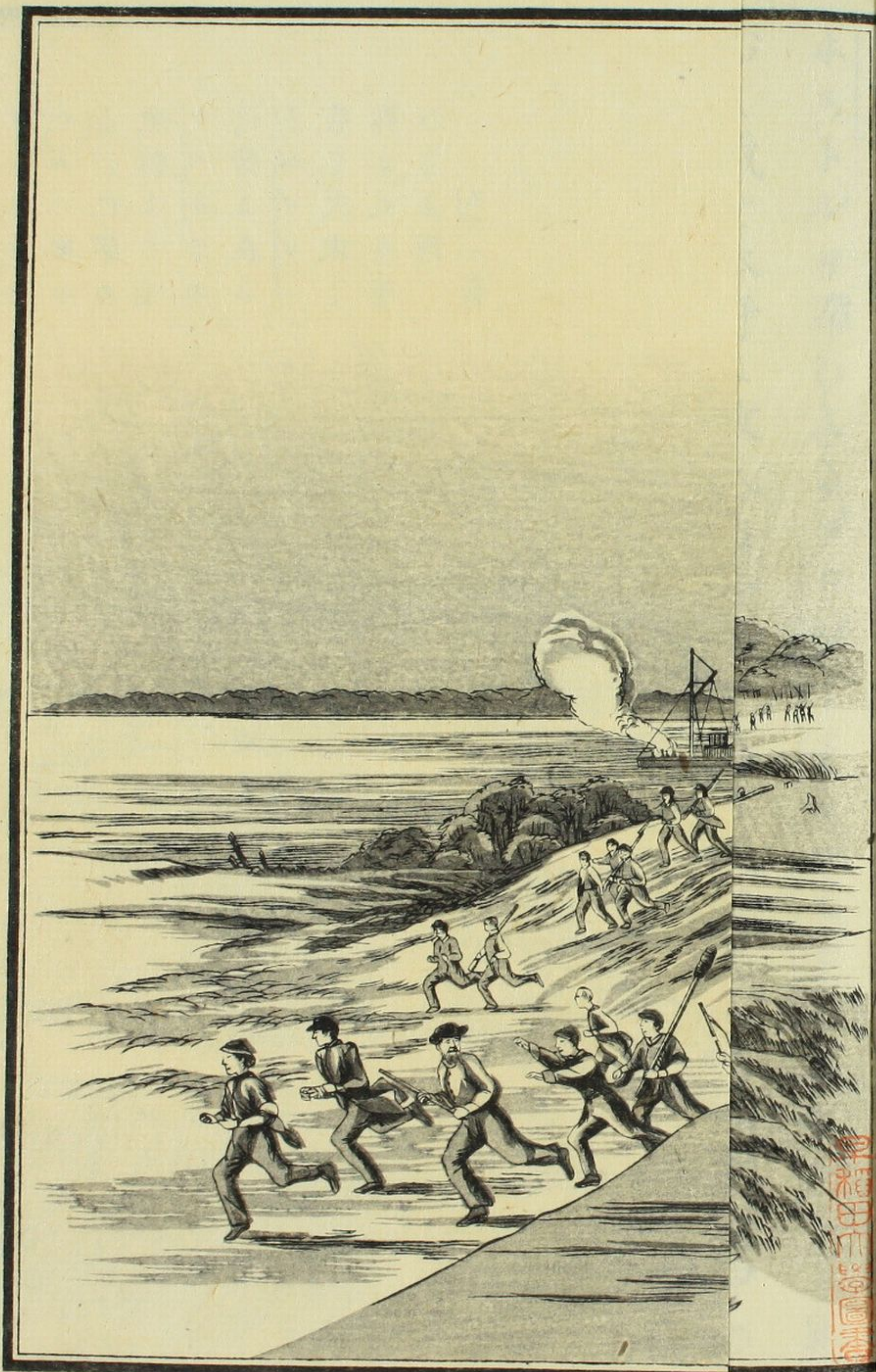
十二日の朝總軍艦ニウベル子に向て出帆し此夜ニウベル子を去ると十八里許にてスロキコムと云へる小河の口に碇泊し此所より上陸せんと決したり

翌朝七時より海軍の備にて上陸し取掛りしが我兵此時最

勇しく見へよける衆人も傳馬船の来るを待よ堪へず水中に飛入り腋下よ及べる深の水を渡りて河岸よ到り夫より泥中を進み先陣も午後八時よ及で敵砦より一里半即上陸しよる所より十二里の地よ至りて其夜此所よ陣取さりされども後陣も翌朝三時よ至て初て其地よ著せり後陣此の如く後れよるを晝夜降續きよる雨よて泥深きと膝よ至り且船より運びよる鐵炮八門を拽きよるを以てふり陸上より合圖を爲しよるよ由て我軍艦も我兵の進むを知り船中より其路よ破裂丸を多く打掛しうむ我兵の進行敵よ妨げられざるを得たり

翌十四日の早朝よ予全軍の進むを命ぜり最ゼ子ラールホストルが率ひよるブリゲード兵隊も大路を進みて敵の左を襲ひゼ子ラールレノが率ひよるブリゲード兵隊も鐵路を進みて敵の右よ出でゼ子ラールパルクが兵もホストルの後より進みて敵の前面よ出て兩ブリゲード兵隊を援くるの命を下せり
予速よ君よ書を送らんとしよるよ由り戦の委しき話を載する能はず唯左の事を簡略よ記すのみ偕四時の間戦ひよる後我兵も一里許連續しよる敵の野砦を攻取たり又敵兵も其外よ大炮十三門の炮臺及河の向岸の沼中よ半里許の

レドウテを設け之は炮銃を備へ歩兵八レジメンド騎兵五
百人及各大炮六門の炮臺二箇所よて警固し之り我兵鐵炮
を打掛て敵兵を追退けしより由り此所とニウベル子の間
よある敵の諸炮臺の後へ速し兵を廻し進むを得たり又
我軍艦も河よ遡り敵砦及我兵の前面へ頻し打掛され敵
兵大し驚き夜具蒲團兵糧袋兵器等を打捨て混亂し鐵道の
橋及平常道路の橋を渡りて逃しりしが其後敵より兩橋
を焼き或も之を破りて我兵の速し追來るとも容易し府中
へ攻入ると能しざらしめたり然ども我軍艦本府の波戸場
よ至り已し鐵炮の力よて之を奪取れり此時予ゼ子ラール



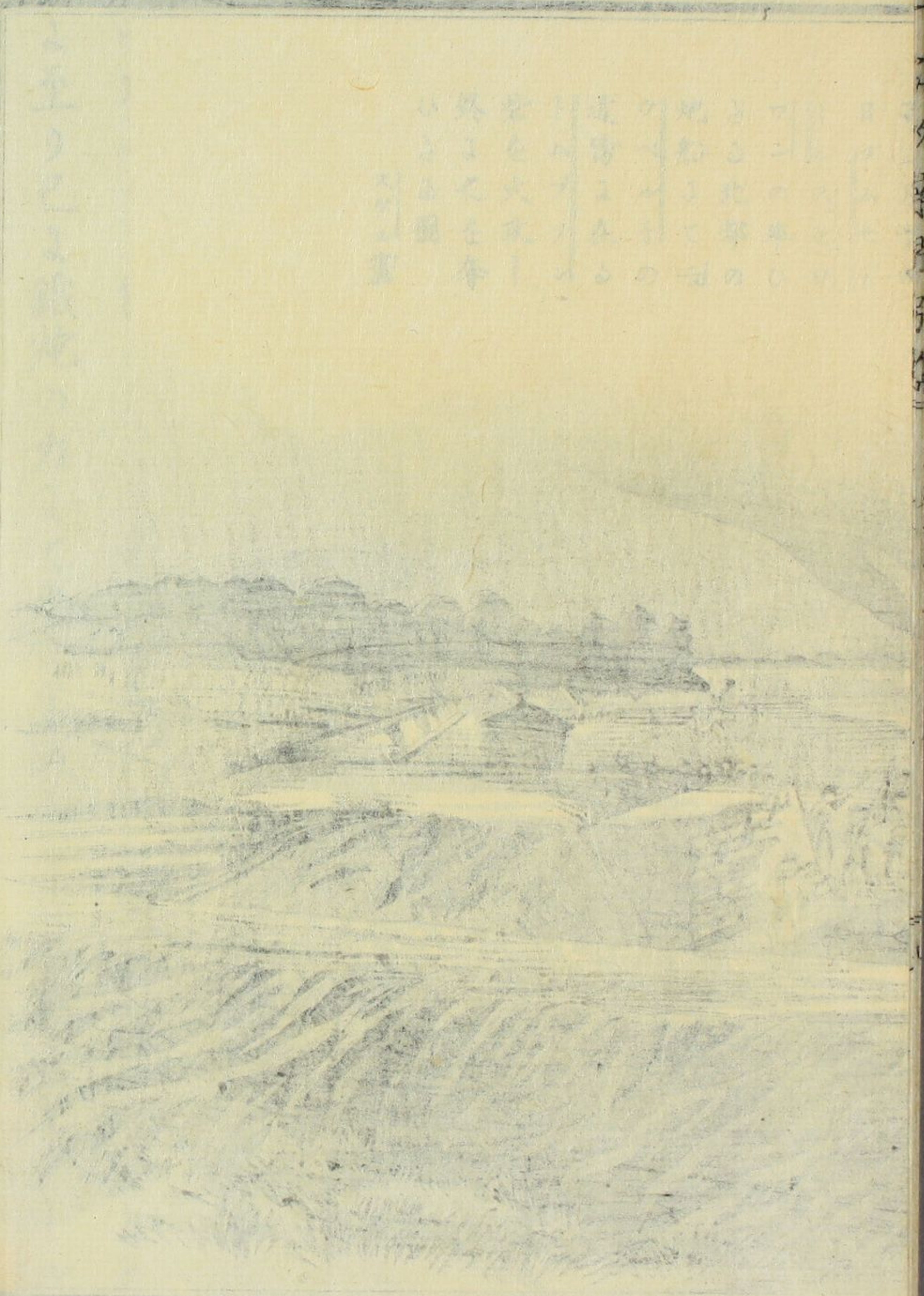
へ攻入ると能もざらゝめとり然ども我軍艦本府の波戸場
よ至り已よ鐵炮の力よて之を奪取れり此時予ゼ子ラール

第三月十四日
日コムセド
イルスセロ
ワンの率ひ
とる北部の
炮船よて
ウベル子の
近傍に在る
トムブソン
岩を火攻し
終よ之を奪
ひとる圖
スケル畫



ホストルが率ひたるブリゲートをコモドールロワング軍
船に載せ本府に攻入るを命じり又逃去たる敵兵府中の
數箇所を火を付け焼んとせしが我海軍將校の力より府
中より住居せる土人火を消すを得たり

初畏れて府より逃出したる人追々歸來りて今我兵穩
に府に入り且余等活字板器械を奪取りされども以後日々
新聞紙を出すべし此勝利にて我海陸兩軍大砲四十六門を
備へたる八砲臺各小砲六門を備へたる三砲臺砲數總て六
十四門蒸氣船二艘平常の小船車馬裝藥彈丸芻秣兵糧樹脂
的列并底那綿布等を多く分捕するを得たり我兵を死者九
トルヘンタイン



十一人傷者四百六十六人又べり但此傷者の中よも命を失ふ者猶多うるべしと察す其中最悼むべきも強勇なる將校數人あり又敵の損失も亦大なるべしと雖も砦杯の庇蔽を得られぬ我兵の如く多うらず

此勝利を得たる大功よ由て我將士を賞する大賜あれども猶満足とするに能はず予謂らく十三日よ上陸して敵砦より一里半の所よ進みたる功も十四日の勝利よ比するを得べし又上陸せんとしとる土地惡しけれぬ我兵腋下よ至る深の水中を越へ岸よ上り十二里許の路を進み夜間雨中低き濕地よ陣を取り早朝よ深霧を冒して四時の間敵兵と戦

ひ速よ惡しき路を進みてニウベル子府よ入りたり此間よ兵士愁歎の聲を聞くとかく皆勇ましく働きけり且各ブリゲード各レジメント并よ各將士皆戦をさる者あり

我士卒皆勇壯よして幸よ病あり予今最危難の時よ當て頼と爲すべき兵隊を率ひたる状を君よ知らしむ

此戦の更よ委しき話をブリゲード兵隊の歸來るを待つべし何とふれぬブリゲードルゼ子ラールを自ら火焰の中よ在りて戦ふされぬ予よ委しき話を為すを得べし

予此度安拿波列斯を出立する以前君より受けたる指揮を專一よ守りたり故よ此戦の状も大抵君が推察して知る所

ふるべし予又此後の戦も謹んで君が命を取守らんことを希
ふ
予又海軍將士の勇及コモドールロワン并其下の將校等
力を盡して我兵を援を謝すべき由を告知す其援を爲
せると皆機會を以て我謀を成就するを得たり
予又君に告知する一事あり即合戦中の敵の援兵ニウベル
子に來着せしが敗軍を見て速に車を乗り或は田間の徑路
を歩いて引退けり

千八百六十二年三月十六日諾格阿利那ニウベル子の陣
中よて書す

汝の下僕
エ.イ.ビルンサイド

合衆國陸軍アザタントゼ子ラルルーマス君へ

一週中の記事

我兵今猶頗る第十島に在る敵砦及密士昔必河よて建徳基
の方ある岸に設けたる小砦を攻るコモドールフリーテを速
よ之を攻取るの機會を知り一週の間大砲船及臼砲船よて
此砦を火攻せり此に載せたる圖を見て知る如く敵砦を河
下ふも我大將ポーフの率ひたる兵とニウマドムト及ポイ
ントプレセントに在る我二砲臺は絶切られ河上よてもコモ
ドールフリーテが指揮せる軍艦よて固めされ其砲船及運
送船皆其通路を妨げられたり我ホイントプレセントの砲

臺の前を潛り越へて逃んとせる敵の炮船も第三月二十一日我兵より目付られて終に打沈められ運送船も元の場所より逃歸れり又コモドールノーテ并に大將ボープも敵砦を奪取んとするよむ陸軍の援兵を要用ふりとす斯くて若我兵の望む所を得ず敵砦ある兵器兵糧等皆我有とあるを得べし

耳剛色斯よりの新聞はピーリジ戦争の勝利を載せたり此戦も最烈しく我兵思の外勝利を得て敵將四人戦死したり其名もマクギルロクマクイントスヘルベルトスレキ等あり又アルベルトペイクが率ひたる印甸上蠻を已を欺ひて

戦より出でせし人より怨を報んとて南黨と戦ひしが雙方共に死傷多しと云り

典捏西よても太將ガラントが率ひたる軍兵等密士昔必邦境より近き典捏西河濱のサフアンナよて北部の兵を集めたり又南部の軍兵を密士昔必のユリント及雅拉巴麻のデカ_{アラバマ}左ルの兩地より多く集まれり南部よて種々よ力を盡くし或は文を飾りて願書を出し或は嚴しき檄文を出して將士を募りされども之よ應ずる者少し又メムヒス府を既に危くして典捏西南部の役人を裁判の事より付き終に已むを得ず鎮台ハルリスと共に行方知れず逃去るよ至れり我元老官

の一人アンドロムウヰンソンを典掎西の軍事鎮台に任せら
れ那是越里に至りて此邦を盡く北部に從せしめ且其政事
を改革せんとしてたり

戦争を夢見するに費爾治尼亞にては獅子終に己の毛髪より露を震落しとして又ウシヌストルの南三里の地にして我大將シールツグ率ひする八千人の兵と敵の大將ゼキソングロングストリートスミトグ率ひする一萬五千人の兵と大に戦ひたりしが昨年十月以後の戦争毎に勝てる如く我兵今度も終に勝利を得たり此に由て我兵費爾治尼亞中央の全地からざるもセナントア河近傍の地を盡く攻取を得べし

又我大將マケルランをマカサスを攻取りテパハンクク或レヒデン河の近傍に敵軍あるやと疑ひ其方角にて二十里許の間兵士を遣りて吟味せしめたり猶其外に多くの大功あり覽者之を記載せる所に至らざる其悦亦甚大なるべし

敵船メルリマクを猶ノルホルク港に碇泊しするを以て我船モニトル新に製造せる蒸氣船メンデルビルトコモドールステヘンスグ指揮しする鐵蒸氣船ノウシヌツク其他の數船皆好く此敵船に注意して怠らず若此敵船進出て戦んとすれど我方にて之に匹敵する備を十分は爲しするを以

て彼反て其害を受べし

今度北格阿利納及び勇壯なるビュルンサイドより驚くべき
新聞を得たりニウベル子の大勝利は次て我軍兵を敵のベ
ウホルトを奪取りマコン砦を打崩し蒸氣船ナスイルレを
破りたり但敵の此蒸氣船を以前潛り英國軍船の警固に因
て我蒸氣船ヲスカロラに追れしるを逃延びしる者あり又
ノルホルクより福落里得の岬に至るまでの間大西洋岸に
在て敵船自由通行するを得る海口を北格阿利那のウル
ミングトンのみかり

敵方の者の評判を聞くに敵兵已にペンサコラより退きし

りと云ふ又我コモドールポルトルグ軍艦及大將ビュトレル

グ兵を

ニウワフルレーンズ

紐阿連尼斯府を防禦する為に作りし敵砦を已に

取しるの評判あり此の如く我兵の勝利多けれど將に顯を
れんとする一吉事亦遠くならずと察するを得べし

各地よて我兵の進行も最速よして支け可くならざる勢あり
若我兵不意に大敗を受くるにあらざれども中夏前も我兵盡
く敵を平ぐしを得べし

費爾治尼亞ウイン左ストルに勝軍さの事

第三月二十三日ウイン左ストルより南三里の地なる費爾
治尼亞のセンナンドーと云へる谷間よて我大將シールズ

の率ひとる兵と戦ひ一時をロングストリートの配下最敗
走せるを以て大に勝利を得たり左に載する報告も合戦の
夜其場より急飛脚を以て華盛頓ワシントンに申越せり

其文に云く我八千人に足らざる兵卒を以て敵の大將
クソンスミトロングストリートの率ひとる一萬五千人
の兵と戦ひ大に勝利を得たり尤今朝第十時二分より攻
始て夜に及びり我死傷も未だ詳からざれども敵の死傷
我に倍せるからん且予等數多の敵兵を擒よ大に數挺
を奪取れり地上よても接戦中敵の打捨たる武具杯充滿
せりされど復敵兵の寄来んうとして我騎兵も猶嚴重に備

一とり

ビーホルドを奪へる事

附マコン砦并に海賊船を撃破る事

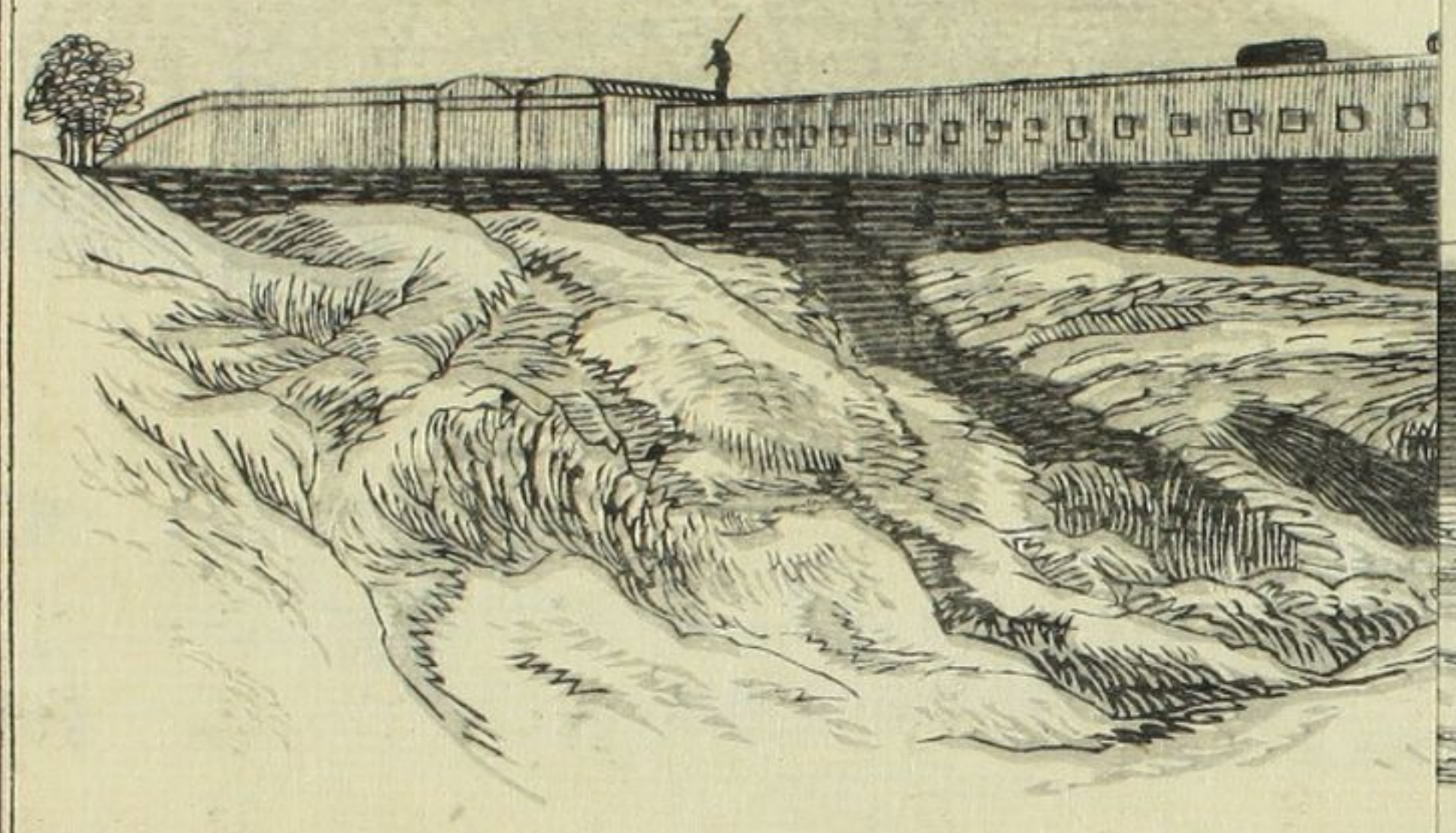
大將ビュレンサイドニューベル子を攻取後北格阿利納カリナの要
害ある入口よてルークラウトより西方あるビーホルドに
差向けし軍勢を新手の兵にあらざれど忽ち之を奪取り夫
よりマコン砦に攻寄せて大に五十門を奪ひ且十日以來此
港に碇泊せる海賊のナスヒル蒸氣船を燒討せり抑ニールベ
ル子も大切なる交易場よて善き港ありコールツボに通ず
る鐵路ありて土人の數三千口あり故に國中繁花ある地の

一とせり又マコンも元北部の一砦よて戦争の初め敵兵よ奪をれしかり此砦の金高を算るよ凡一萬元四分の三よ當ると云へり此地の騒動未ど全く鎮まらざれど大統領林登の云へる如く再び之を取戻しとれど永く安穩よ警衛すべし

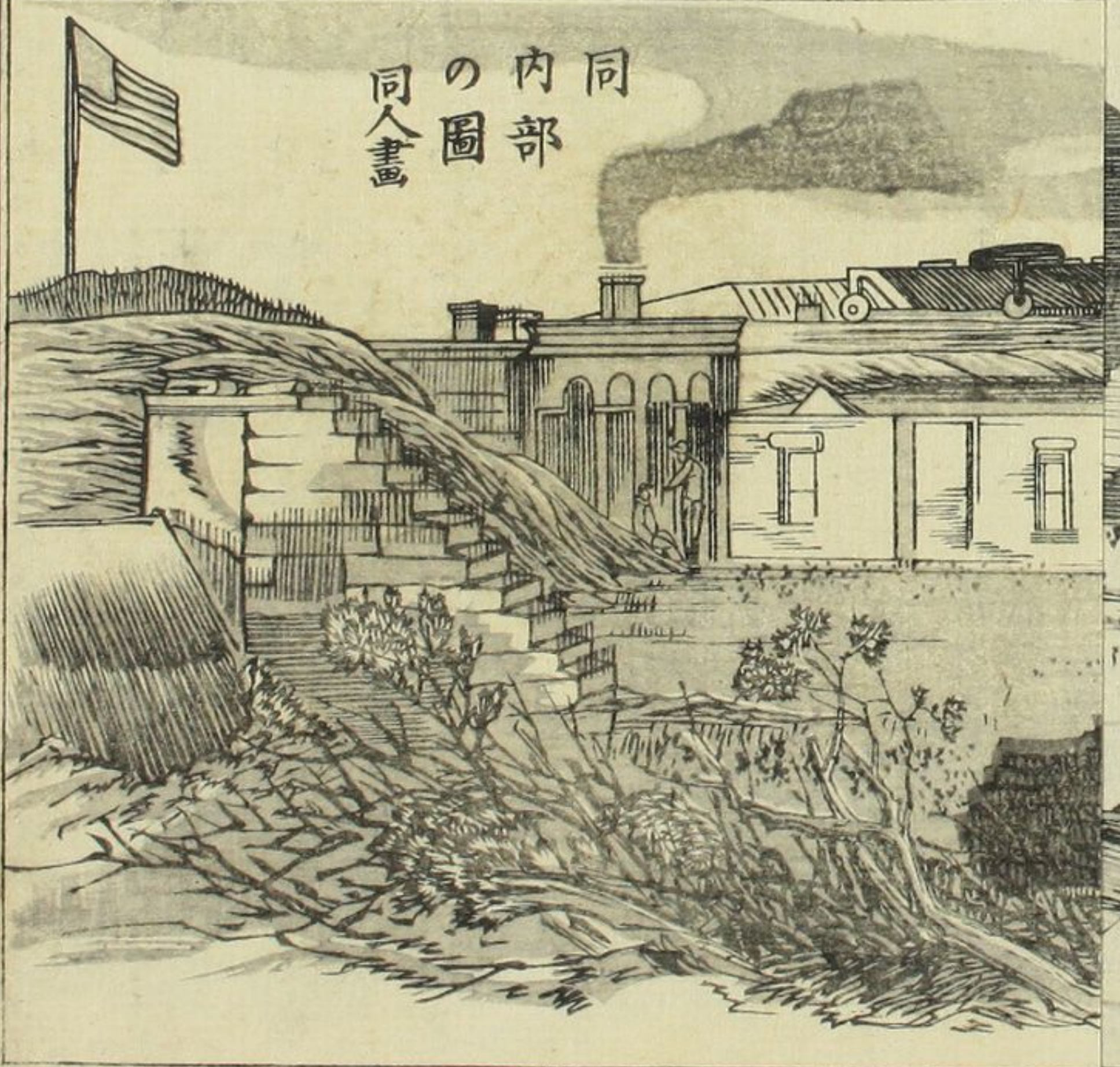
福落里得アメリカ島クリンチ砦の事

予等前よ出せる新聞紙よヘルナンジナの圖並よ其地の委しき地圖及び之を圍みとる有様を載せより之よ次てクレインの圖を出しコムブルラントソラントよ在る砦の中最好きクリンチ砦の内外の様子を知らしめんクリンチ砦を

日コムモ
ドール
ポイン
大將
トの率
とる北
海陸兩
の攻取
るアメ
ア島キ
ンチ砦
部の圖
ケレン
畫

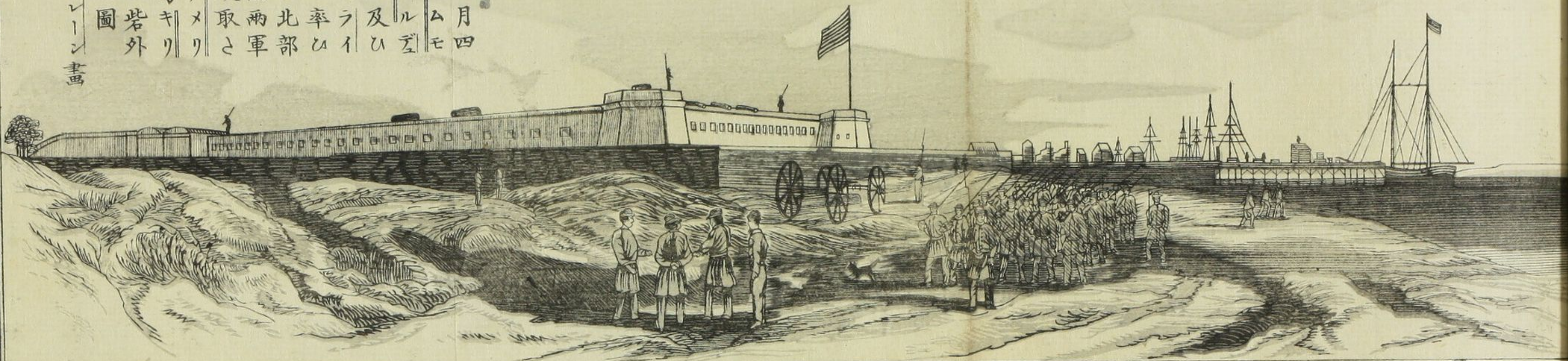


同内部の圖
同人畫

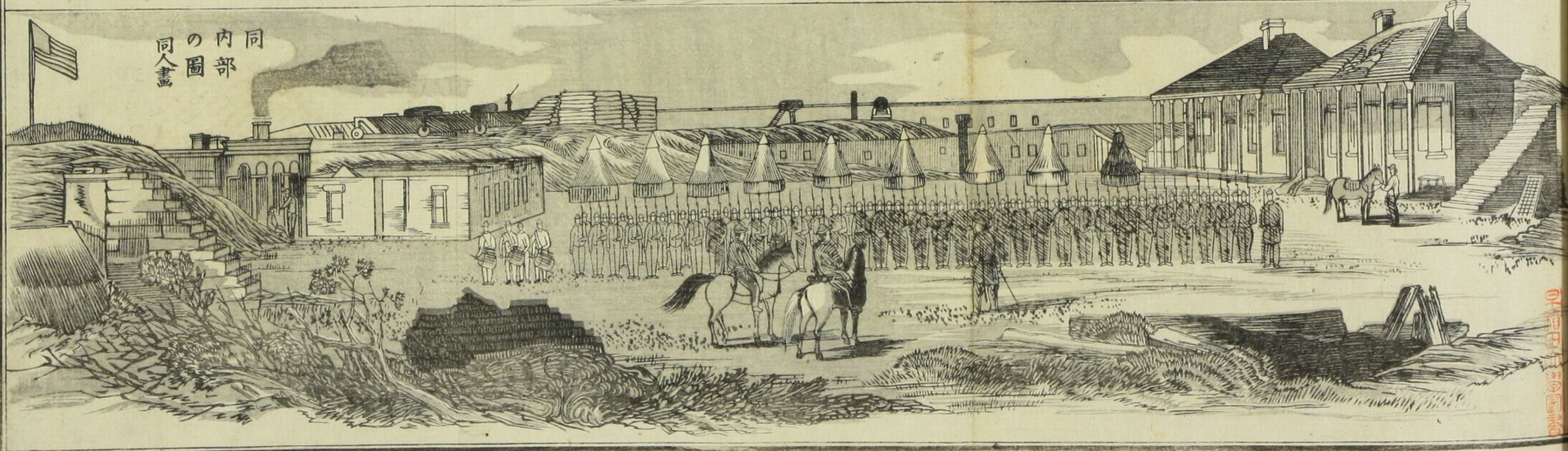


早稲田

第三月四
 日コムモ
 ドール
 ポン及
 大將ラ
 トの率
 とる北
 海陸兩
 の攻取
 るアメ
 ア島キ
 ンチ若
 部の圖
 ケレン
 畫



同部の
 内の圖
 同人畫

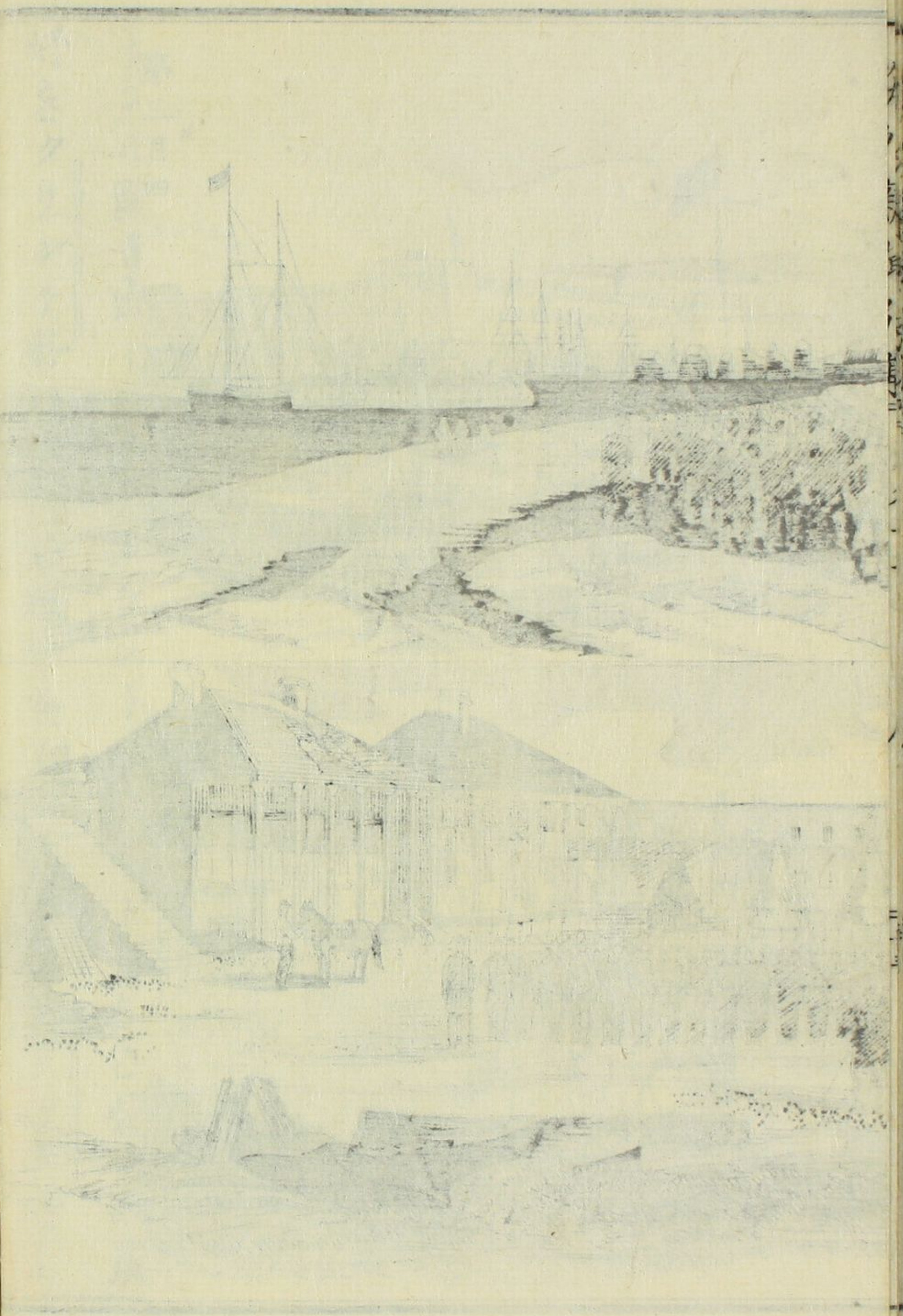


此地圖及び之を畫みたる有様を載せたり之より次にクレ
 ーの圖を出しコムブルラントソラントに在る岩の中
 好きクリンチ若の内外の様子を知らしめんクリンチ若を



アメリカ島の北部に在り南地に築きしる諸砦中よて最堅固なるものとす然るに敵兵福落里得の諸砦を捨去りしるを下條の事を海軍書記官に告げしる指揮官にポンの事は練熟し且堪忍強きよも驚きて臆ししるに見へしり

予等此島の海邊の邑クリンチ砦其外の砦を見しるよ要害最も堅固なり敵兵之を守りながら予の兵は敗北せしるを驚くべき事ならずや北及び北東の海岸の臺場を術を盡して築きしるものなり其中六の臺場を前よ砂山ありて能く之を掩ひ鐵炮を避るよ宜しく且小よして周圍よ草木生茂りて之を蔽ひ陸地を種々よ屈曲して水面より

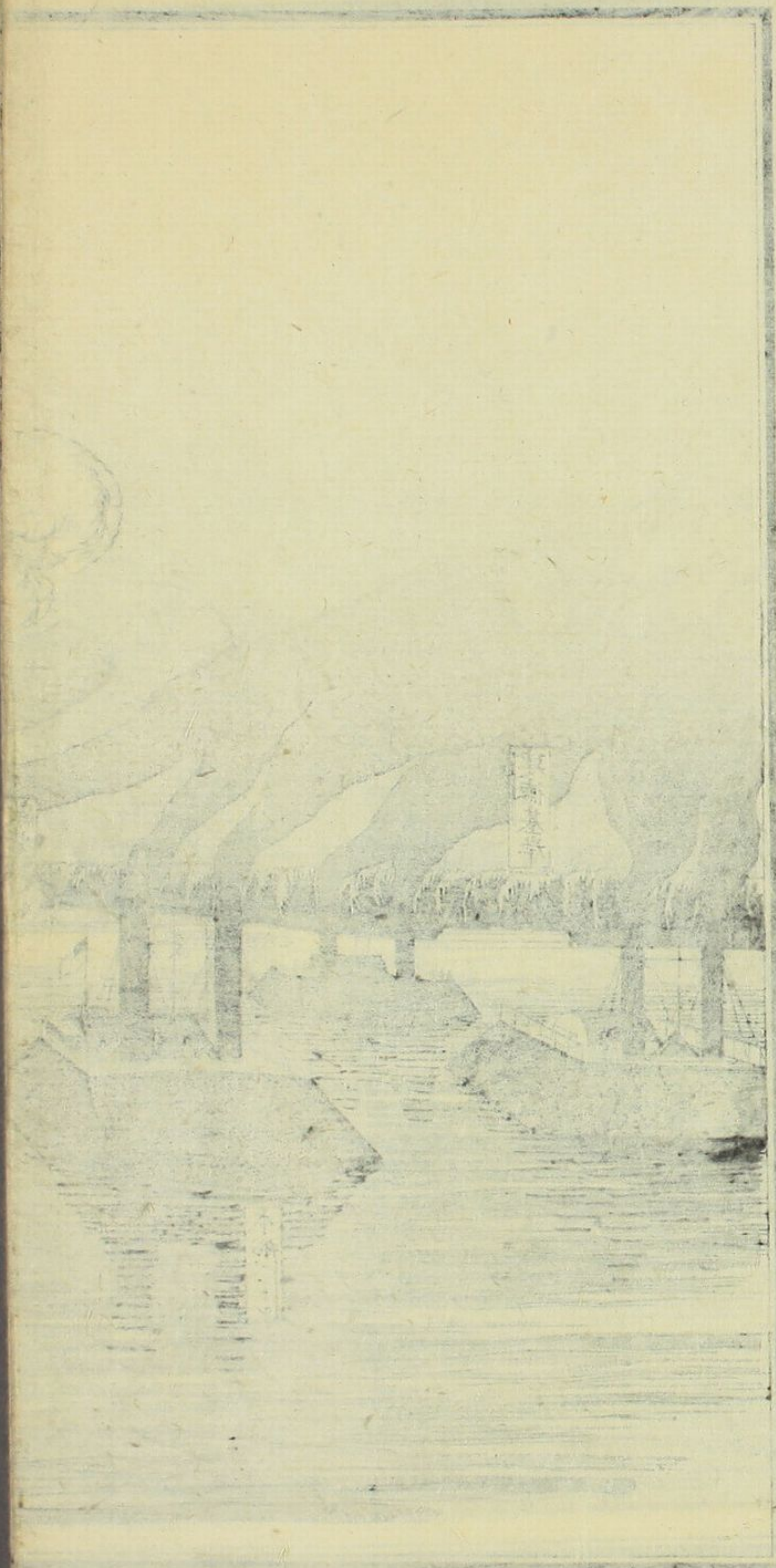
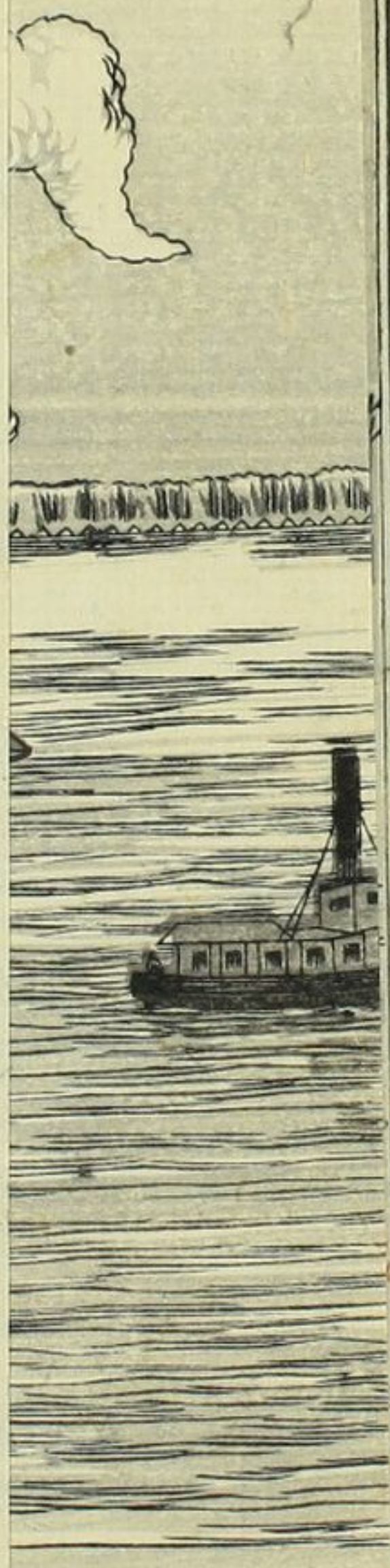


之を攻ると甚難し六門の大砲を備へたる臺場を上より此
ふれど大かりと雖も同く軍卒を隠して要害堅固なるも
のかり此諸臺場及びクリンチ砦は備へたる大砲能く大
船の海峡を往来するを防ぎ近寄敵あれど直よ之を放ち
て打敗るを得べし此外猶コムブルランド島の南端より四
門の大砲を備へたる臺場あり之より鐵砲を放つ時を水底
より設けたる柵を越ゆべし又外より攻るよを海峡種々よ
屈曲し且水底より柵を設けたるを以て容易に攻入がごとく
近寄んとする船を常に空しく外より支へられ若幸し此を
乗越すを得て府内の入口に在る能く築き且草木蔽ひし
る臺場よて之を防禦せり予等大將リし此地を要害堅固
かりと稱するを聞く若果して此の如くかりとも驚くよ
足らず既に予等ポールトロイルを攻取けれどヘルナン
デナ及びクリンチ砦を容易く予等よ渡りたり

第十島の事

密斯昔比河よて敵軍の保ちたる大切の場所を第十島及び
建德基河濱よて此島は臨む高岬あり此島及び岬を以前敵
軍よ奪われ今も彼等爰に堅固なる砦を築きて河岸諸砦の
一とせり但此諸砦中のコロムビスを河上の砦よてニューマ
ドリットを河下の砦とす敵軍の止を得ずしてコロムビスを

退きし時其地よ置ける番兵及び武器よ至る迄悉く第十
鳥及びニールメドリットよ送りとり其後程おくニールメドリット
よ送れる兵も大將ポープよ攻付られて逃去とり故よポー
プ直よ進みて爰よ備へたる大炮を奪ひ之を用て河下の島
より退く敵の運送船及加農船を支へ指揮官フリーテを河上
より敵を襲ひとりフリーテ又ニールメドリットの下ポイントプ
リーサントよ大炮を備へたる臺場を築きて此を通らんと
する一艘の加農船を覆し遁んとする數多の運送船を逆戻
しとりされど敵も兵糧の運路を絶これ且指揮官フリーテ及
び大將ポープよ左右より攻立られ加農船運送船を悉く大



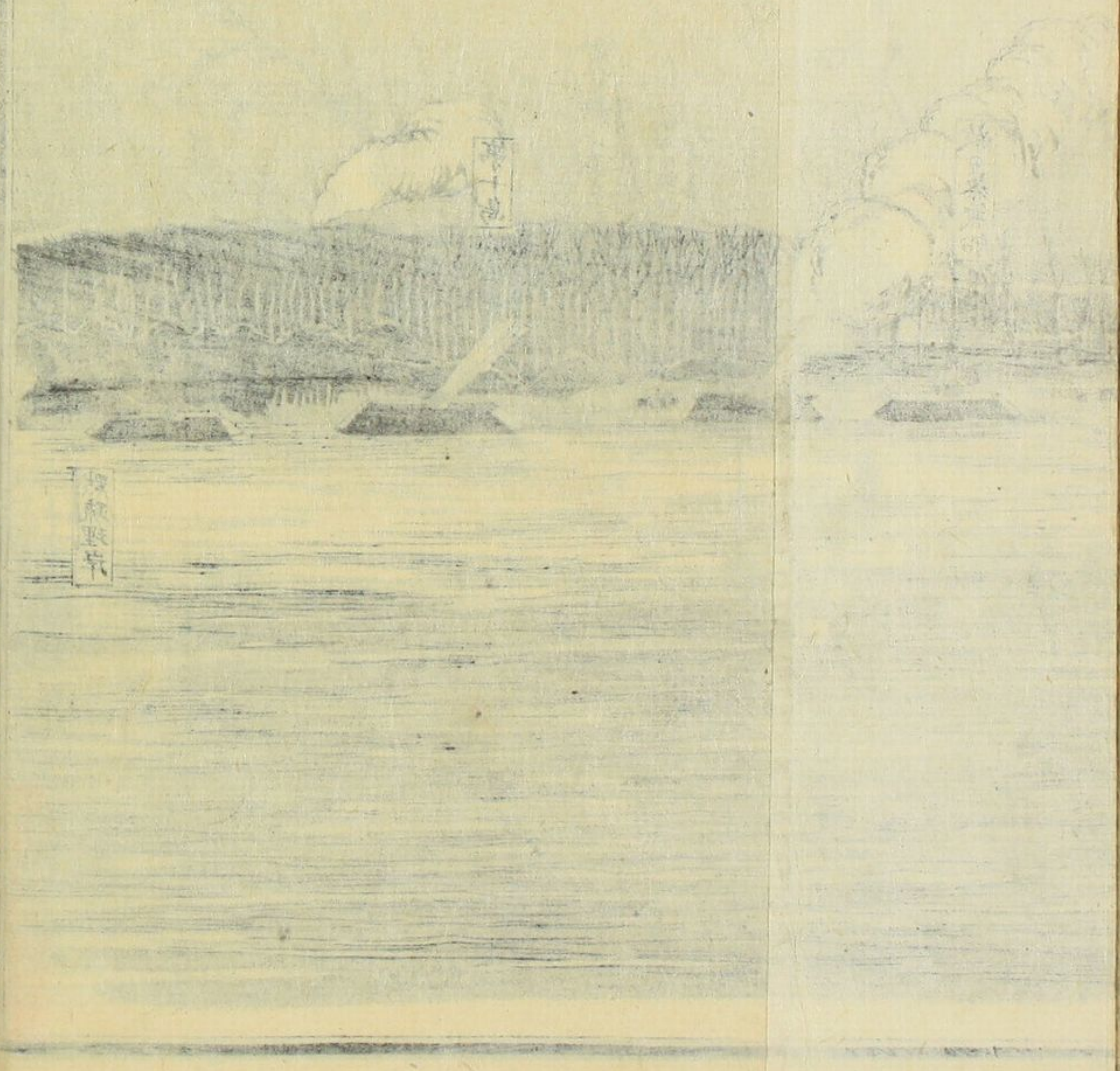


第三月十六日
 北部の砲船及びモルタル砲船は、
 てフロムビシとニウマ
 ドルトの間島を攻撃す
 る圖
 ロビー畫

一とりされむ敵も兵糧の運路を絶とれ且指揮官フリーテ及
 び大将ホープは左右より攻立られ加農船運送船も悉く大

る 圖
是 文 學 堂
と 亦 十
年 十 月 開
入 三 月 廿
二 日 開
講 義 堂
日 此 門 前
學 三 月 十 六

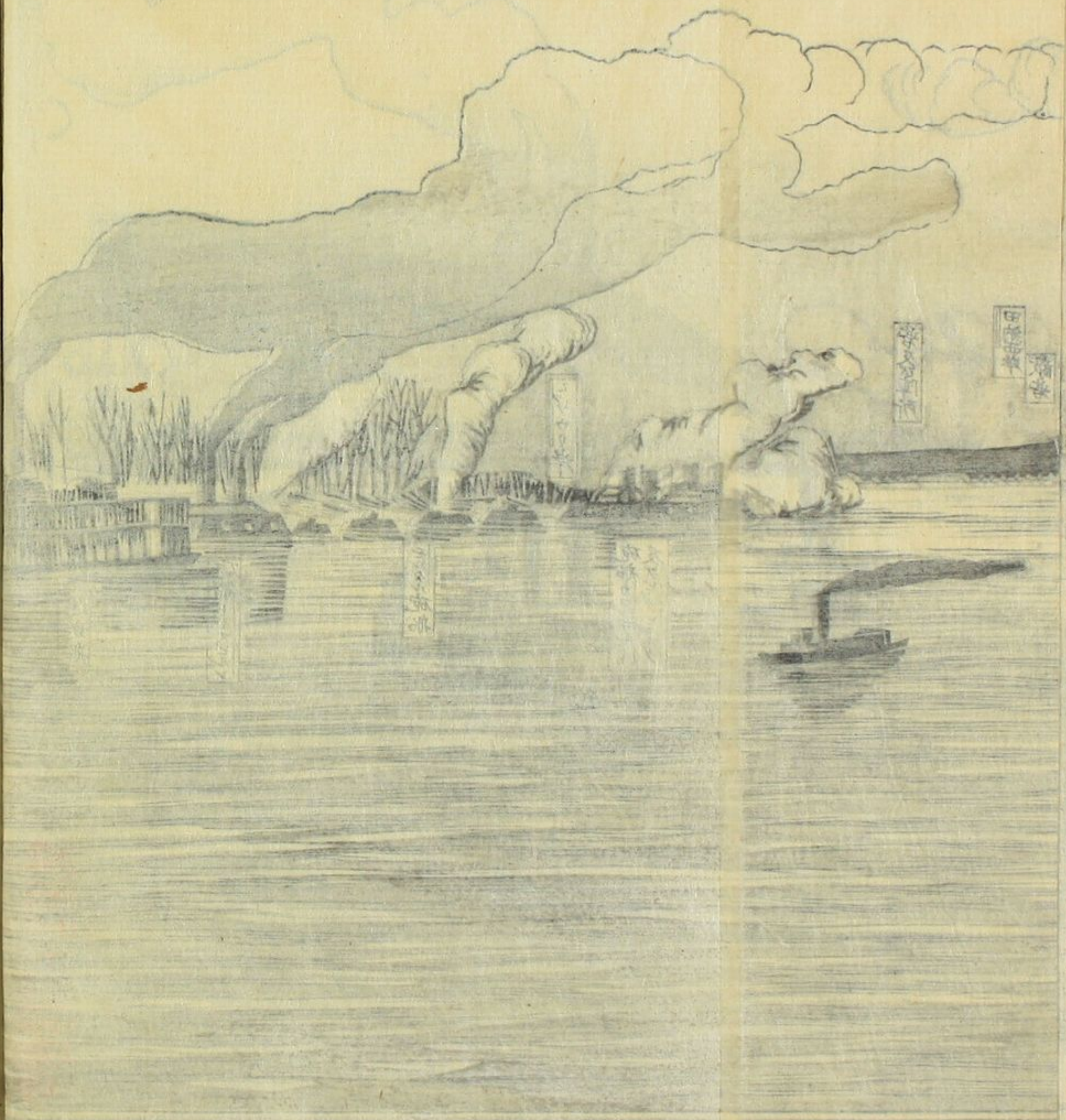
ロレト書



第三十七部
日北の砲船
ルタル第十
よて之を對
及び建徳基
せる敵若を
岸の敵若を
火攻する圖
ハロヒ一畫



ハローヤ一畫
 大丸の橋を
 我の橋を
 さる裏面
 及び山
 んて十
 うん
 日兵將の
 衆三月十日



炮を捨て第十島の向ふたるヲビンスヒルレの半島に上陸
 しとれど此を越へるの外遁去べき路あり指揮官フリーテを
 殆ど一周の間加農船及び臼炮船を以て第十島及び河岸の
 砦を攻立て次第よ之を攻落せり又敵軍の退去し或を降参
 しとる時刻も未と知り難しと雖も今度の合戦よも夥しく
 大炮及び其他の軍器を失ひよる事あるべし爰よ載せよる
 有様も圖よ精しく著せり予等の臼炮船も右の河岸即ち黙
 疏理の岸に碇泊し加農船も河中に出でて戦ひけるが此島と
 ニーメドットの間敵の加農船及び運送船浮臺場よ嚴しく
 圍まれて逃るゝ能をド而して敵軍ポイントプリールサント

よ築きさる我臺場の河下を通りて陸を越へければ幸よ逃
るを得べし其路を沼澤多くして難所おれども速からずん
む大將ゲレントの軍卒必ず其通路を絶つべし

第十島火攻の事

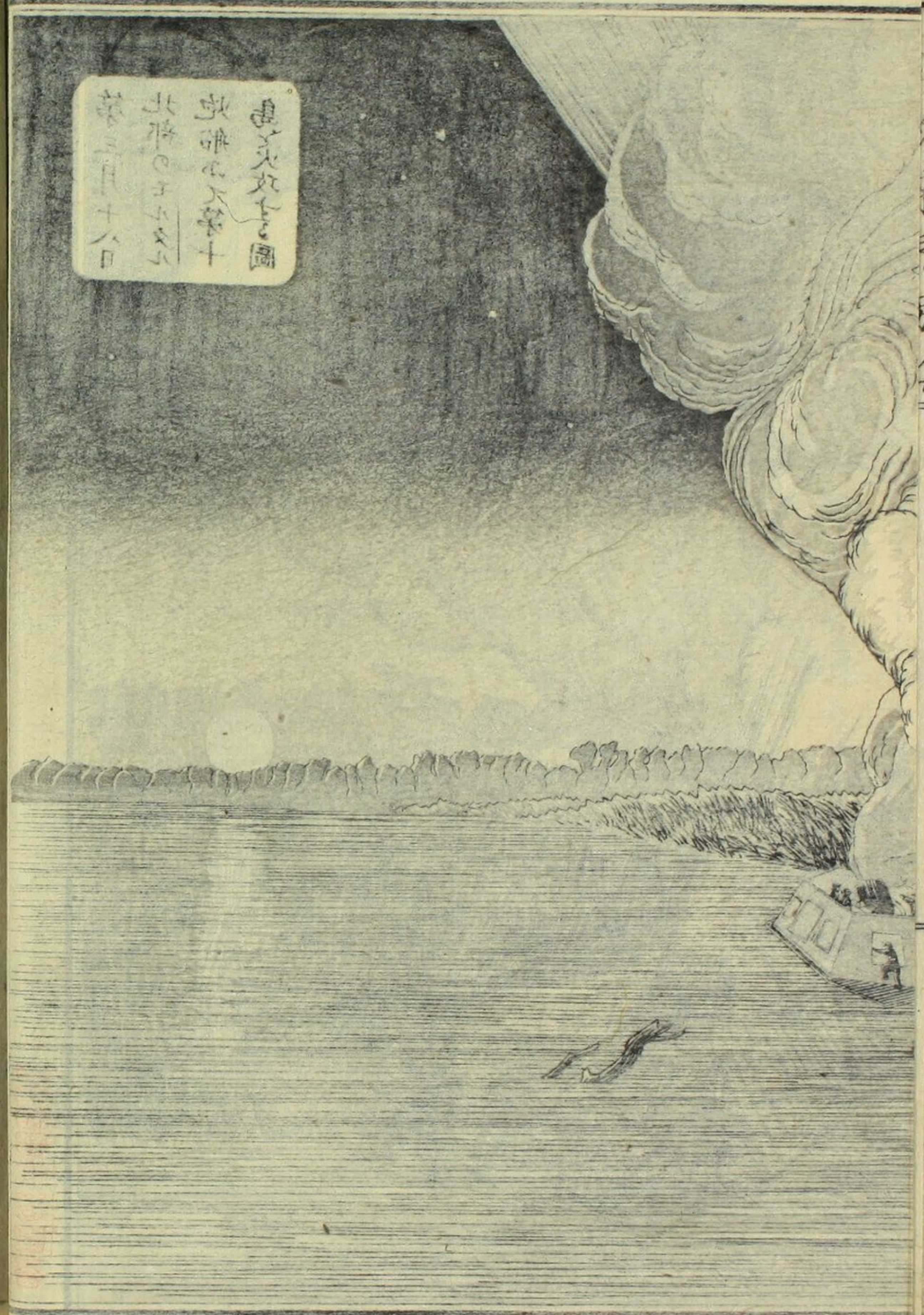
今北部の加農船コ子ステゴよ居る畫工ロヒー密斯昔比河
の合戦の圖を予等ふ贈りとり又第十島の火攻を讀者前の
新聞紙よて知るべければ長文を無益あるべし故よ予等之
を畧し數十語を以て其圖解を爲せり諸シンシナチピノビ
ルダストロイスシルフルウエーフカロンデットモワン
シイチーコ子ステゴルイスヒルレロブローイアルプス



新聞紙よて知るべけれど長文を無益あるべし故に予等之
 を畧し數十語を以て其圖解を爲せり
 諸シシトテピラノビ
 ルダストロイスシルフルウエーフカロンデダトモワン
 シイチーコ子ステゴルローイスヒルレログ
 ローイアルプス

第三月十八日
 北部のモルタル
 炮船にて第十
 島を火攻する圖





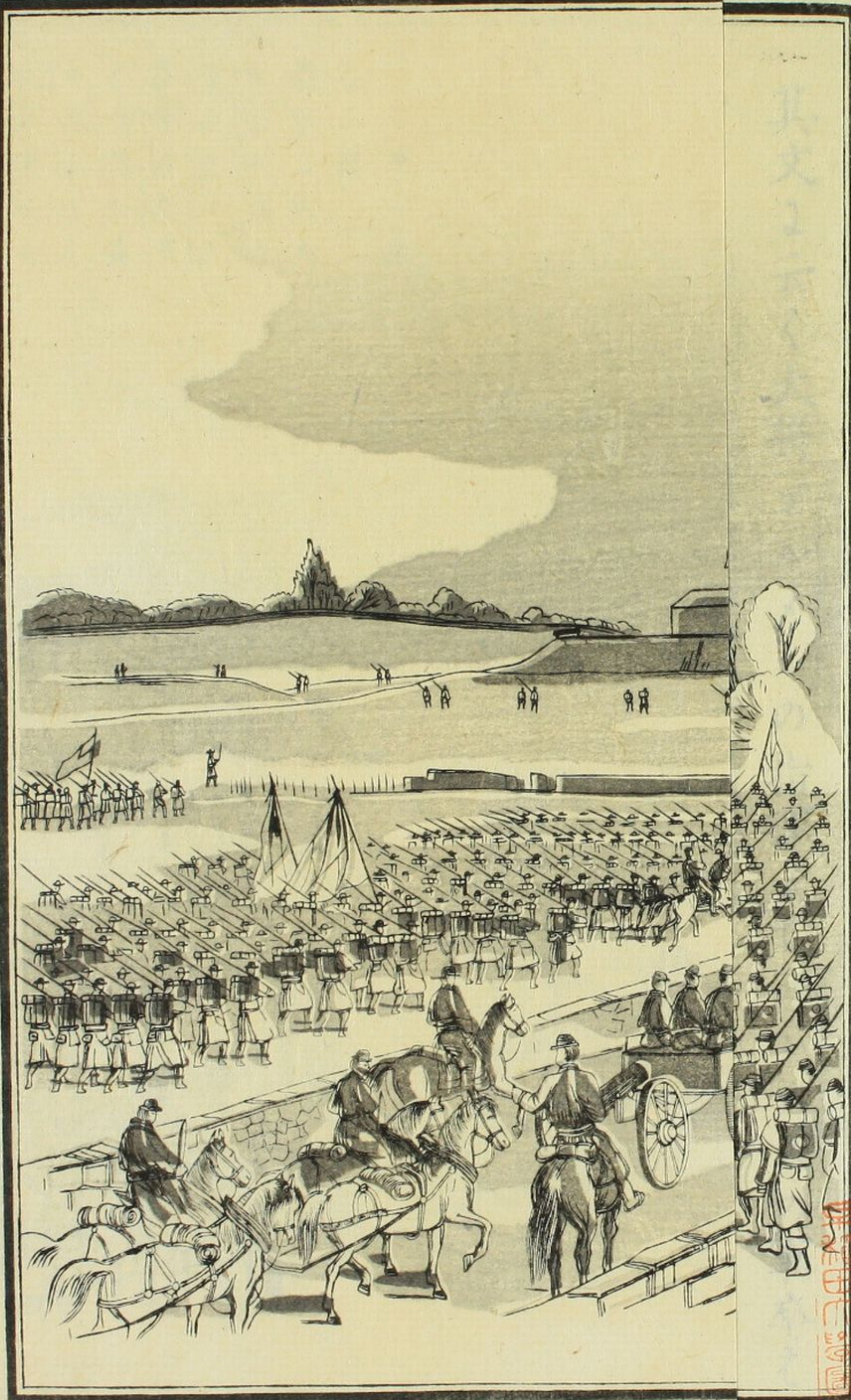
暹羅丸を撃つ
 暹羅丸の撃つ
 暹羅丸の撃つ
 暹羅丸の撃つ

ウルツンレーキイリーゲレート、ラストルン及びトルレス
 ンと云へる十九艘の臼炮船加農船又其外九艘の臼炮船此
 とも島よ向て走りさり但此諸船よ添へる數多の蒸氣船あ
 り十六日よ諸船より鐵砲を打掛されむ稍暫くありて敵軍
 の臺場よりも鐵砲を打出せり斯くして數日の間合戦續き
 されど味方の損失至て少し是船の鐵張よして且隊伍の能
 く整ひさるを以てあり畫工ロヒ一の予等お贈りさる書翰
 よも次の事を記しさり予の圖を臼炮より火煙舞颺り發す
 る暴母丸の破裂する有様を著せり其打出せる暴母丸彼此
 よ飛び終夜星の隠れ或も顯る如き有様あり且其中天よ破

裂一火光四方に輝ける有様實に大愉快とも云べく亦恐るべし恰天より光を發する別世界ありて破裂一とるやと疑ふむうりあり予等の地圖及び之に添とる書に據て讀者密斯昔比河火攻の高大ある事を知るべし

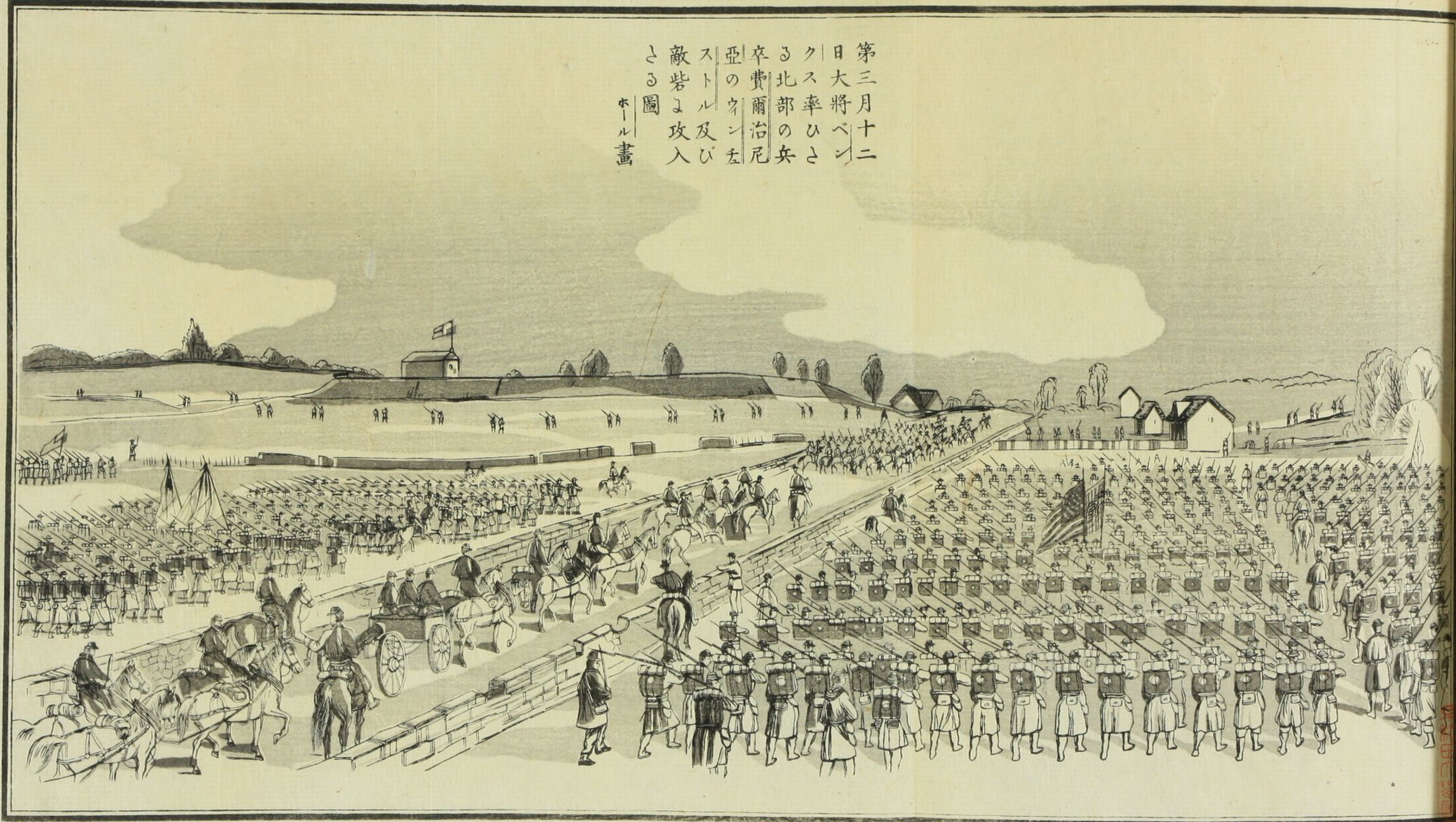
費爾治尼亞ウニテストルの事

ウニテストルの邑を再び我地とかれり然れども古今更に異ならず庶民其土風の遊戯をかして樂むおらん第三月二十一日に軍事監察も是非なく其遊戯を爲すを免しとりとそ予の畫工ホルの圖を都府に軍卒の攻入とる有様を著しとるよて之を約紐克の新聞紙に左如く説明せり

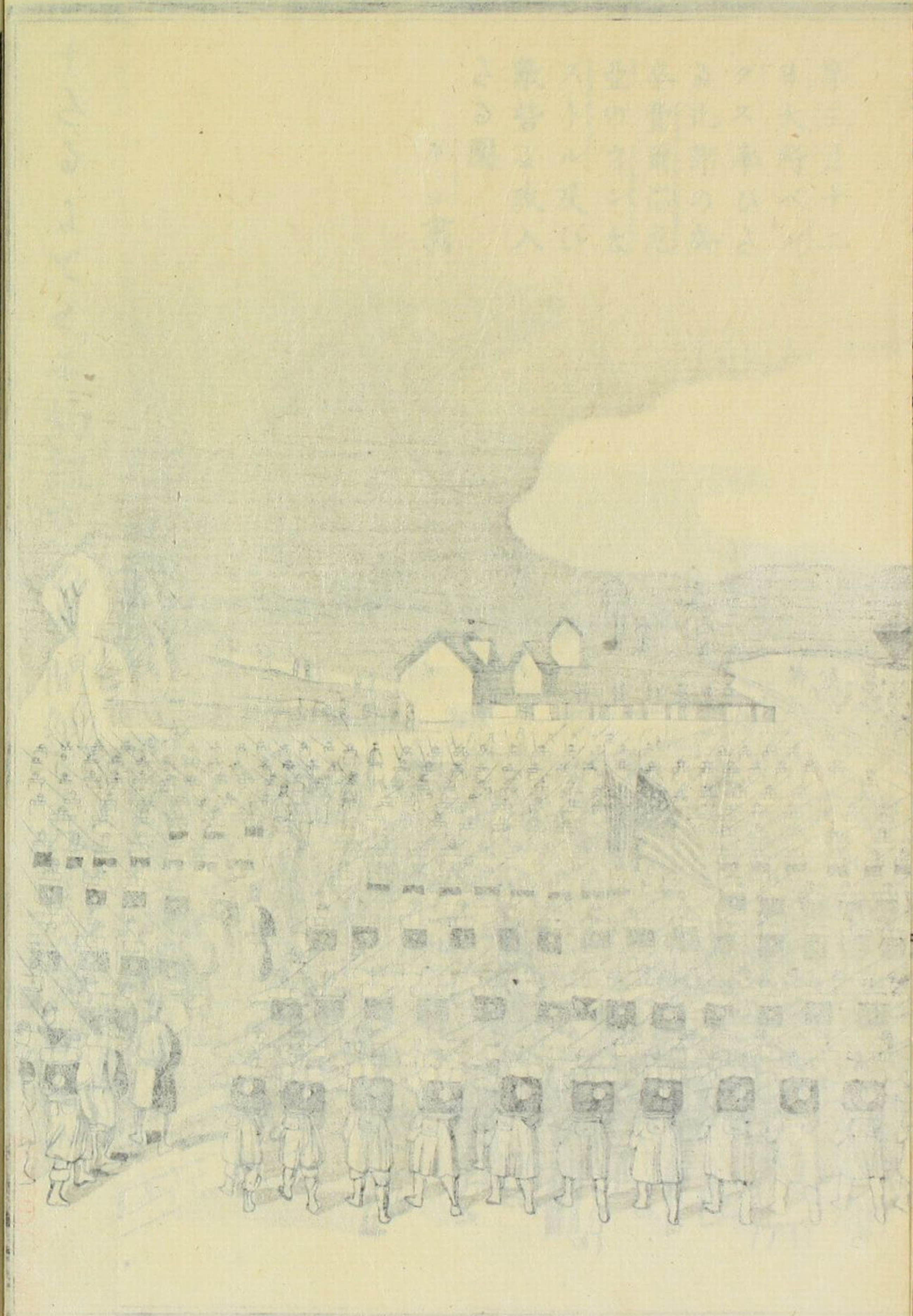


十一日、軍事監察も是非なく其遊戯を爲すを免し、とりと
 そ予の畫工ホールの圖も都府の軍卒の攻入する有様を著
 したるよと之を約紐克の新聞紙に左如く説明せり

第三月十二日
 大将ベンクス率ひて
 北部の兵卒費爾治尼
 亞のウー左
 ストル及び
 敵砦を攻入
 する圖
 ホール畫



其文よ云く大將ゴルメンの指揮よてベックスの軍卒を
十一日費爾治尼亞ベルリーヒルレの邑よ至れり此地よ
も敵方の騎兵五十人程屯けりが紐約第三の騎兵大砲
及歩兵の援を以て之を攻立たり因て敵兵を列を亂し
ウストルの方よ遁去りたり此夜大將コルメンの先手の
兵を敵のコロチルエスバイの騎兵よ遇て追逃られり
大將更よ恐る色あく頻よ軍卒を進めて敵の堡砦を探索
しウストルより二里の間よ押寄せて敵兵を追散し
數多の敵を擒よして其四人を殺し或も傷けたり是をウ
ンチストル滅亡の時來れるかり偕敵兵を予等の軍卒よ

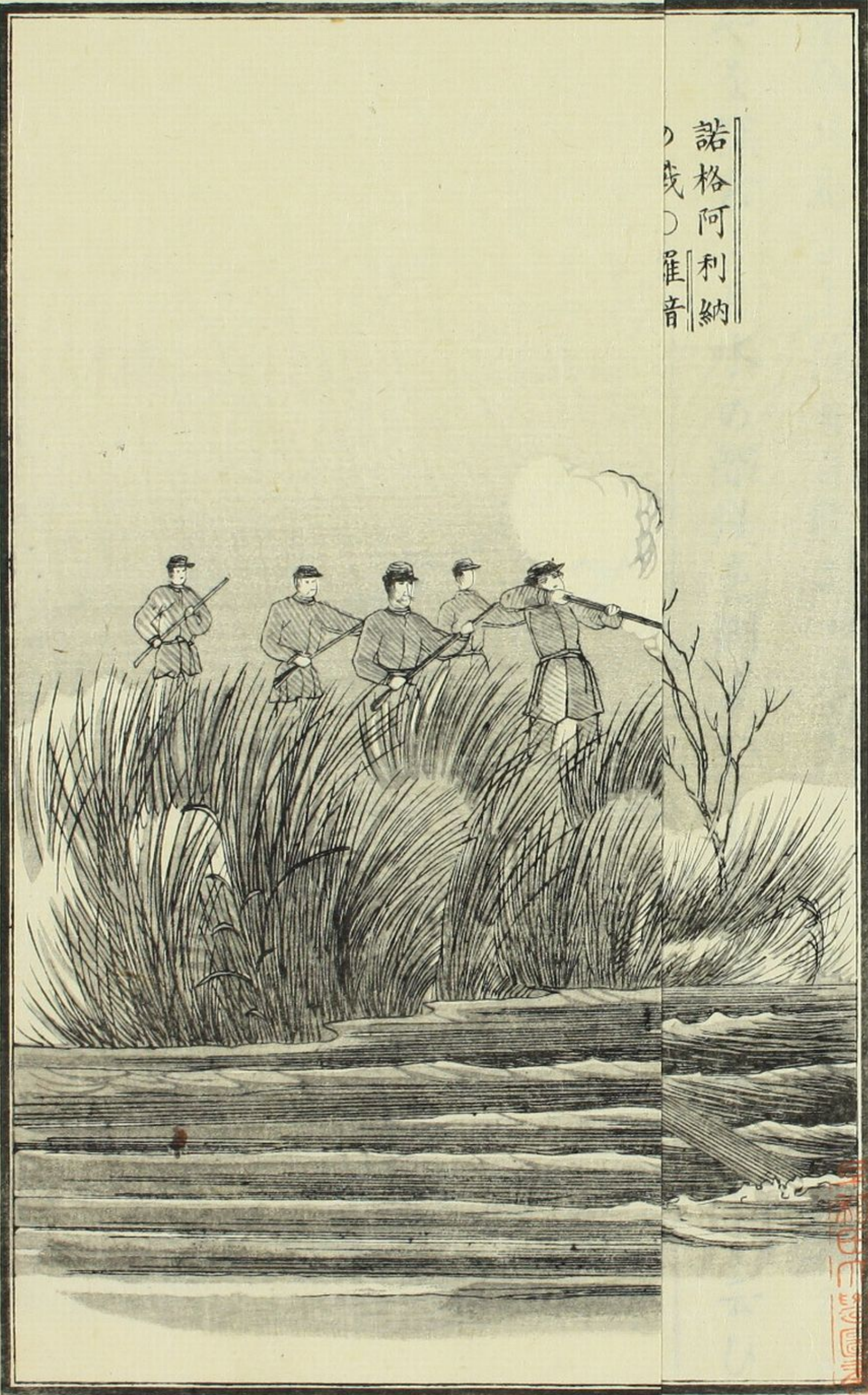


攻立られて遂に十一日の午後此地を退くとせり大將
 ハミルトンミチガを米世幹ミチガの騎兵よ軍卒を指揮せしめてボン
 クルヒルより來れり此時敵の勇猛なる騎兵千二百人大
 炮を打掛け午後五時よ戦を始めり予等の騎兵を瑪理蘭
 第一の歩兵并よ大炮を備へよる臺場の助を以て大よ戰
 へりされど此合戦を暫時の間よて敵兵を大炮を捨て遁
 去りより故に第十二日の未明よを予等の軍卒府内よ入
 込みて敵の後軍も皆遁去りぬ

羅暗鄂島

敵地探索よ出よる味方の者敵の伏兵よ逢へる事

諾格阿利納
の
敵
の
羅
音



去りたり故に第十二日の未明に予等の軍卒府内に入
込みて敵の後軍も皆遁去りぬ

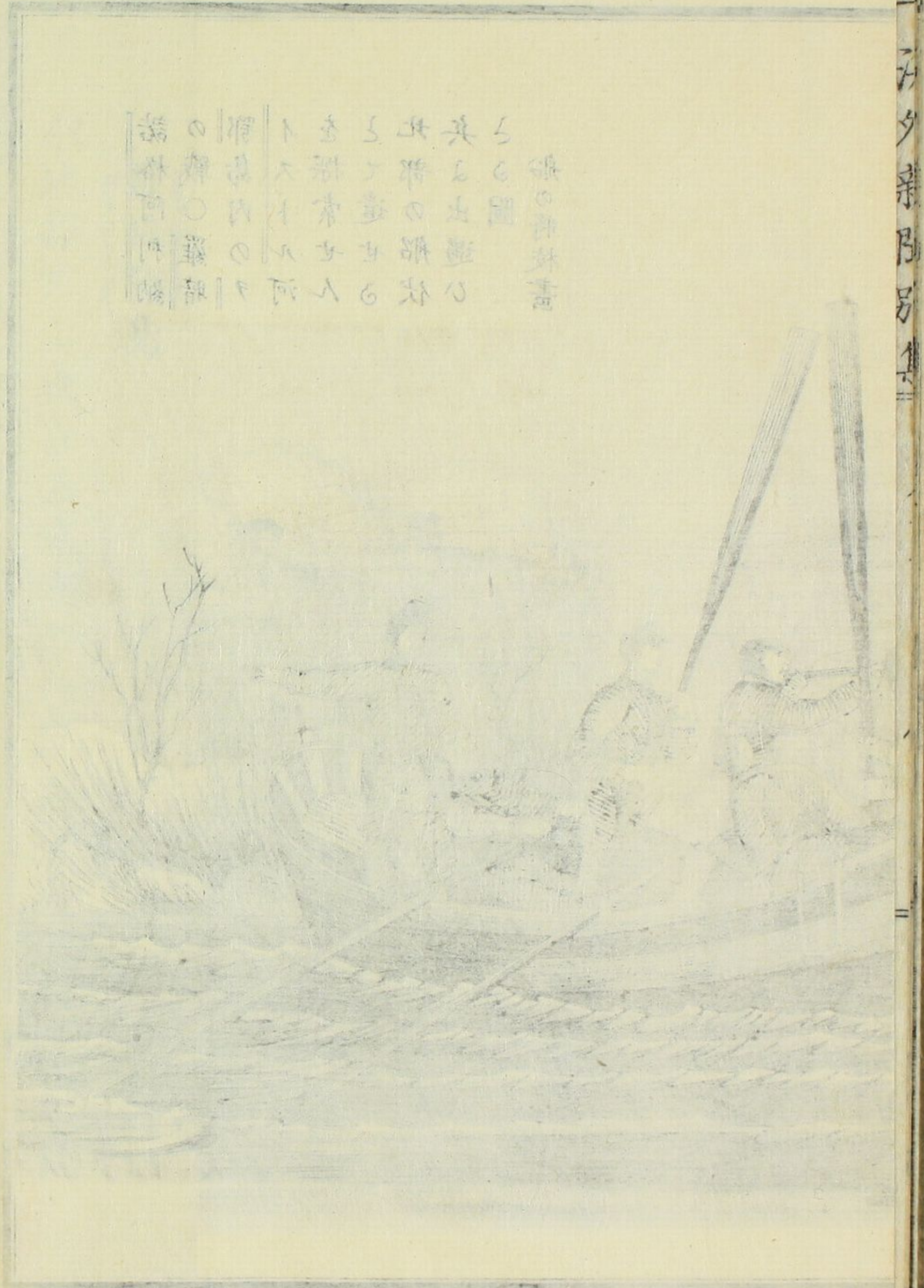
羅暗鄂島

敵地探索に出たる味方の者敵の伏兵と逢へる事

諾格阿利納
の戦○羅暗
鄂島内のヲ
イストル河
を探索せん
とて遣せる
北部の船伏
兵と出遇ひ
たる圖
船の將校畫



俄の陣書
 共に出撃心
 此將の謀略
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を
 其の意を



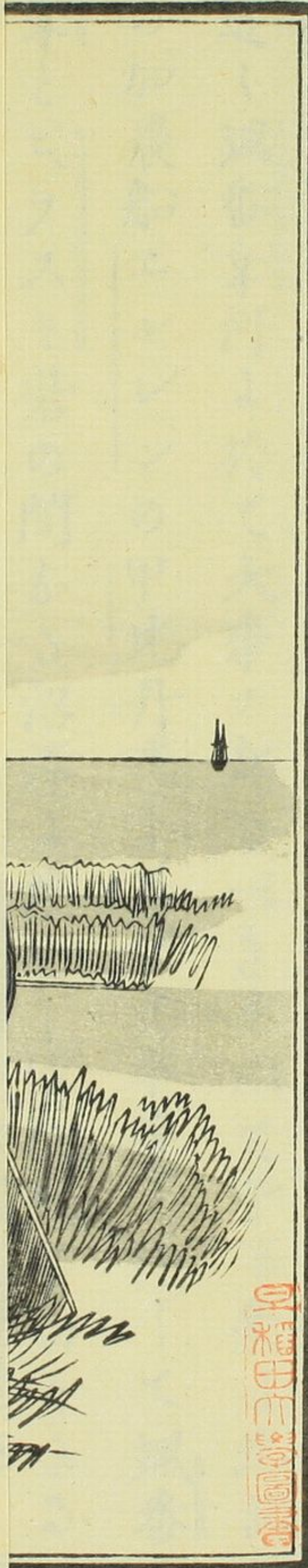
軍卒此島より上陸せる前よりライストル河中より往き臺場ある
 やを探索し且水の深淺を測るべしと副將エンドロー云ひ
 ければ大將ピュルンサイド之を免しざるを以てエンドロー
 を直し十人を擇びて共より小舟より乗り探索より出たり斯くて
 歸んとする時林中より俄より伏兵起りて鐵炮を打掛け一人
 を傷けたり然れども此勇士等速く此を逃れて大將ピュルン
 サイドの本陣より歸り精しく其様子を告たり

人物の論

メルリマク船との戦は於てローテナントウラルデン傷を
 被されども其任は堪へざるを以てローテナントウニヒヘル

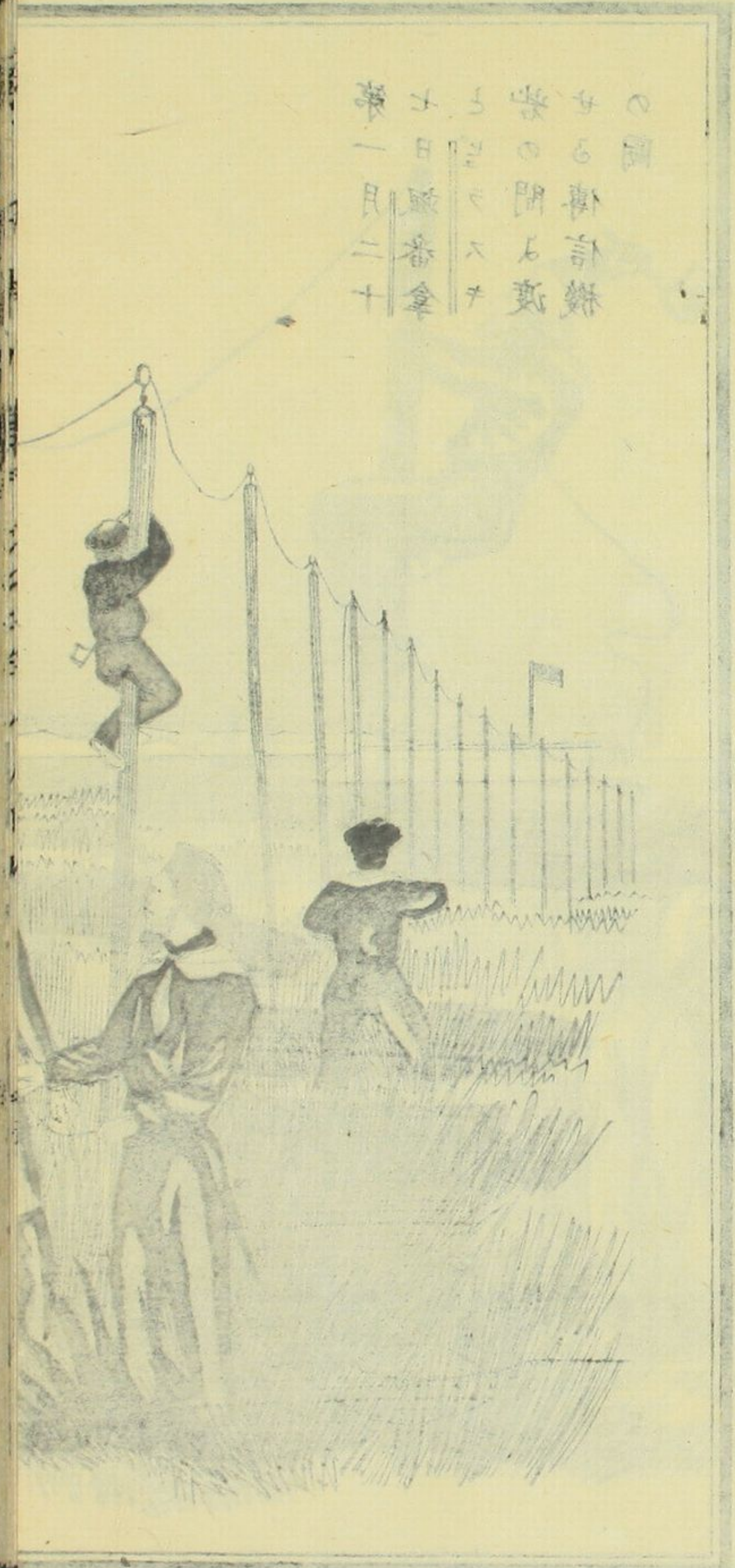
ソノ之より代りてモニトル船の指揮官に任せられりモニ
 ルー若よりクライビンの告知に彼を論ぜり左の如し
 一テナントセヘルラン智勇且謀略ありて能く事な熟
 練し堪忍強き者あり大炮に關する諸事を最精しく其外
 此役より於て甚だ用立べき事業數箇條あり彼の此役より任
 ぜられりるを寶に其任に叶へりといふべし以後モニト
 ル船の勝敗を彼の指揮に在りされり此河の戦を始めと
 して常に勝を得るあるべし

飆^{サハンナ}番拿及びピラスキ若の間を渡りし事傳信線を功
 りし事



田中

の圖
 女は新計録
 安の閉も敷
 十日
 第一月二十



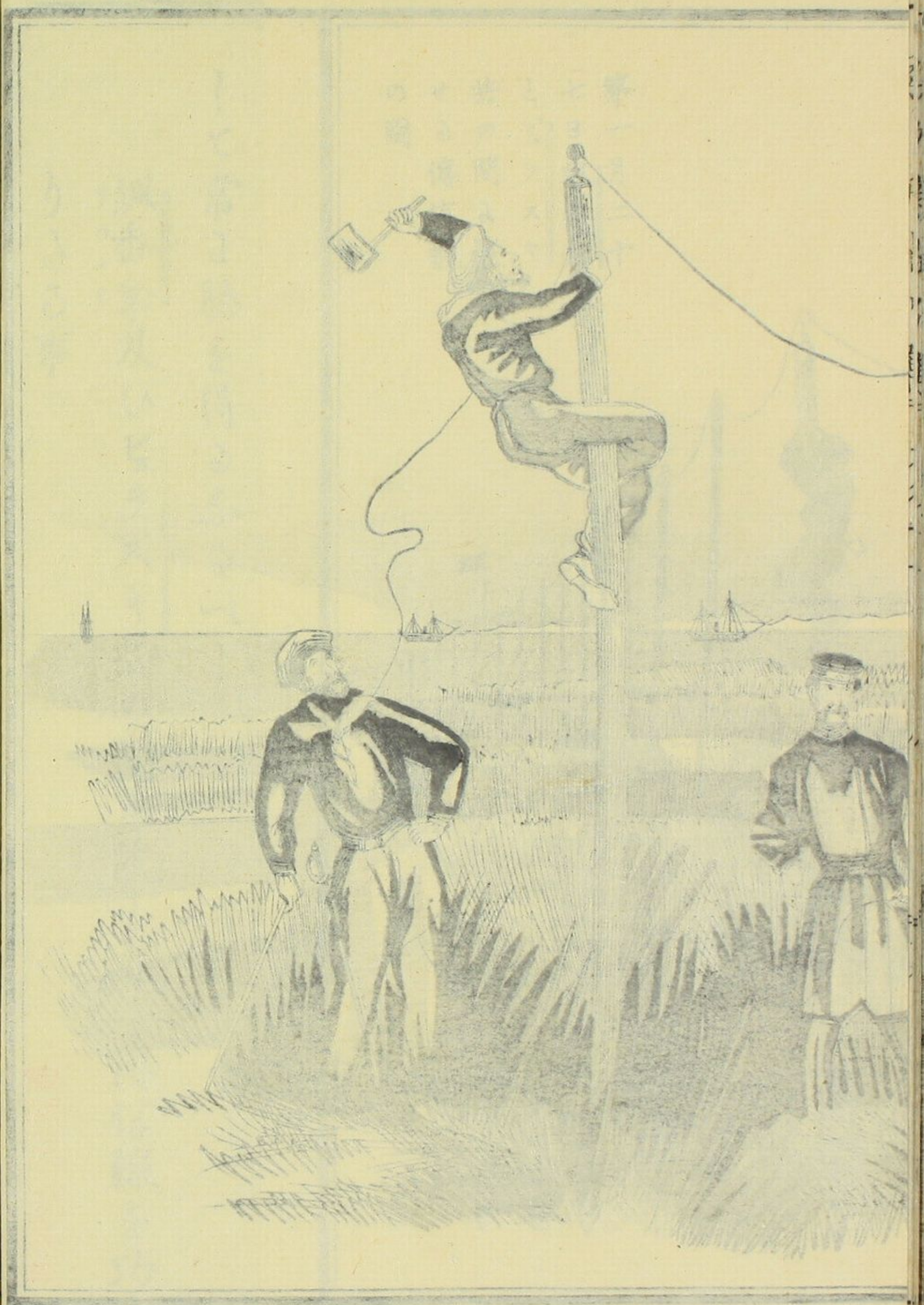
ぜられとるも寶は其任に叶へりといふべし以後モニト
 ル船の勝敗を彼の指揮に在りされむ此河の戦を始めと
 して常は勝を得るあるべし

颯番拿及びピラスキ岩の間は渡りとする傳信線を功
 りとする事



第一月二十
 七日颯番拿
 とピラスキ
 岩の間は渡
 せる傳信機
 の圖

福田三郎



近々颯番拿河よ於て大事の起るべきを以て予等爰よ北部の
 加農船エルレンの甲比丹ボット及び兵卒等上陸して颯番
 拿とピラススキ岩の間なる沼澤よ渡せし傳信機を切りとる
 圖を著すべし右も第一月二十七日の事よて此日より岩の
 番兵颯番拿の都府よ音信を傳ると能をざりし

ヘルナンデナの黒奴賣船の案針役プリンス
 の事

前よ出せる新聞紙よ甲比丹ロヂルの捕へとるターリング
 といふ蒸氣船の圖を著しとり其畫エクレイン此事よ就て
 奇事を述より俦此船よも武器を備へず且四十人許の婦人

兒童乗組けるが元より敵の暴虐あるを恐れて之は與せず
予等此船の往來するを見て怪しき船と思ひ捕へたり

畫エクレーン云く甲比丹ロヂル之を追て其船は打掛さ
る鐵炮も幸よ當らず又彼より更よ鐵炮を放さざれも直
よウバス船より其船は乗込て其有様を見るよプリン
も自若として居されども餘の勇壯ある士卒も皆驚きて
立騒げり是より甲板は下れども各哀れある客貌をかせり
此騒動中よ三四十人の婦女子も最後の時來れりと心を
決し首を膝に附て神を拜し愁傷して居たりける去れど
も甲比丹ロヂル彼等兩三人は向て今汝を害するよ非ず

且ロヂルガ之を守護し遣すべしと言聞すれば彼等大よ
悦び各安堵したり初彼等捕われし時を必ず予等よ窘
られ極て難義すべし若死せずして免るゝを得む大幸な
りと思へり故よ予等此蒸氣船を奪ひし時を皆愁傷せ
りされど少しも暴虐を施さず却て懇切よ取扱けれも各安
堵して夕刻よも皆樂しき容貌を爲せりルイテナントバ
ル子スも二十人を率ひて此船を送るべしとの命を受け
て之を碇泊すべき都府まで送遣したり又密賣船の案針
役プリンスも黒奴中の最も才智あるものよて予友ソ
エルの彼を巧者よして才智ある者と稱せるよ違をす且

彼も此地よて多年案針役をさせるを以て國內の水の深
淺を知ると書物の如く既に彼が案針役をふすを以て木
タワ船航海者の甚ど難しとするレントマリース河を容
易よ渡れりレントマリース河をヘルナンデナの西十里
よ在て八百口の住民あり此地も以前卓爾台亞人の住所
ありーが今も大抵遁去りたりプリンス容易よマリース
河を渡れど予等の最嗜める鴨青豆を數多得ると難き事
ふるるべし

敵兵の暴虐ある事

敵將ガル子トのカルルクスヘルトよて討死しソルリコヘ

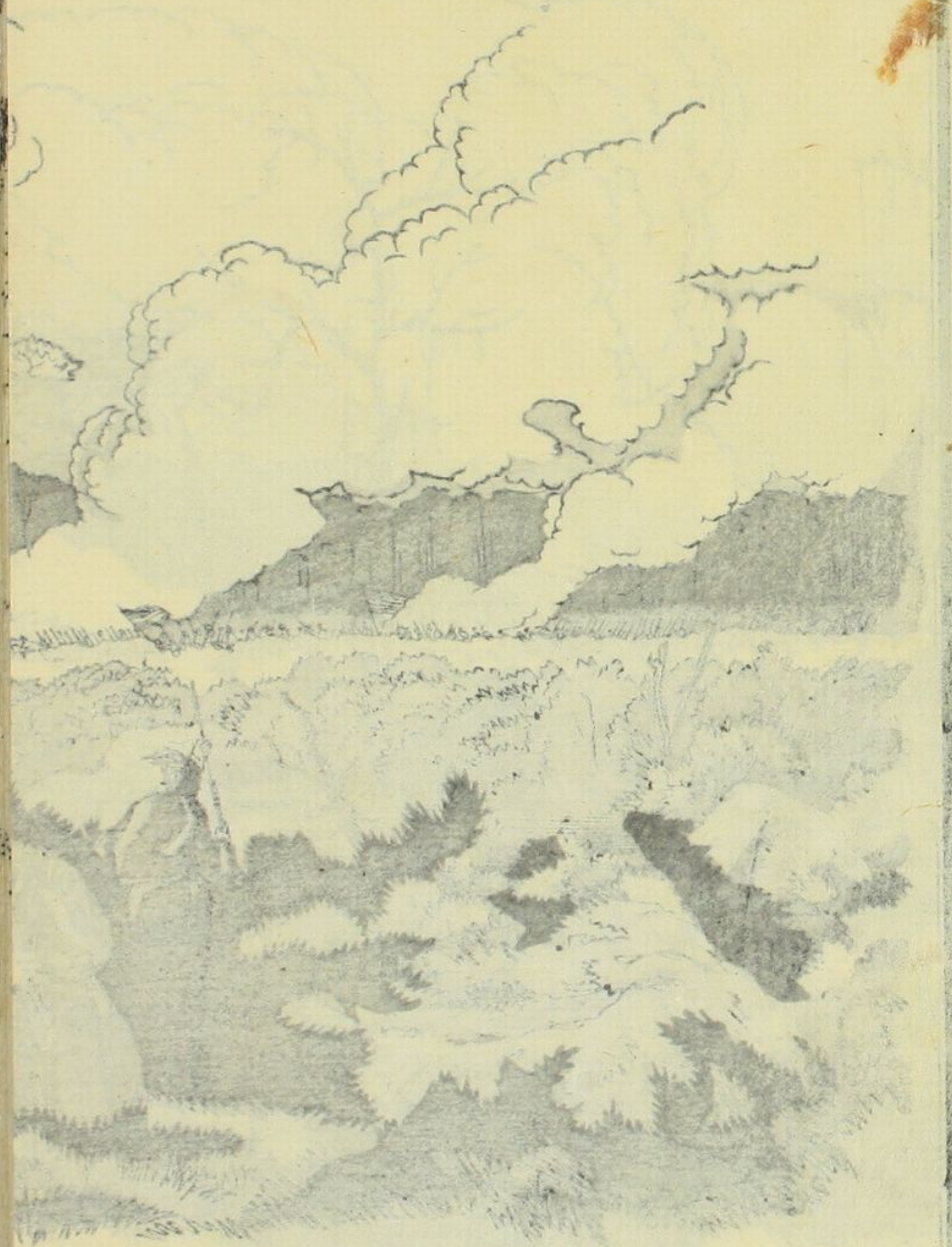
ルのミールスプリングよて戦死し甲必丹ワイスのローノ
ック島よて討死しとる時の取計を思出さずんぞあらず敵
の身分ある役人討死しとる時を味ケの指揮官必ず其骸を
懇よ取扱ひて之が為よ愁傷し其親戚朋友を求めて之を渡
しとり又味方の身分ある役人敵兵の手よ戦死せる時を是
と父し殘忍ふる取計を爲せり軍事書記官の兄コロ子ルケ
ミロンヒールリンよて戦死しとる時を其骸を雜兵の死骸
と共に出水の時窪める穴よ埋め上よ纜の上を蓋ひ後よ其
親戚或も朋友の求め易きが為よ標しも建ざりし此よ兩三
人の貴人右骸を掘りて華盛頓よ移し葬んとて骸を乞ひよ

敵地へ往きこれをも之を擒よしてリチモントは數月禁錮せり尤ッロ子ルケメロンの骸をも其後或る黒奴の世話よ因て之を掘り終る取戻しより斯く敵方よて味方の死骸を殘虐よ取扱へるも常の事よてマカサスの戦争よ敗走しよる時を見て知るべし北兵の戦死せる首且骨を以て酒盃又を他の飾物よ造り新聞紙よ載せよるマカサスの知らせよ第七月二十一日の戦争よ討死しよる我兵卒の首且骨杯を大抵管或は指環等よ造りよるといふ又黒奴味方の勇士討死よ就ての事を語りけるよビルリンの敗軍よ敵軍凱旋の印として數多の首を南部よ送りよるとあり



早稲田の図

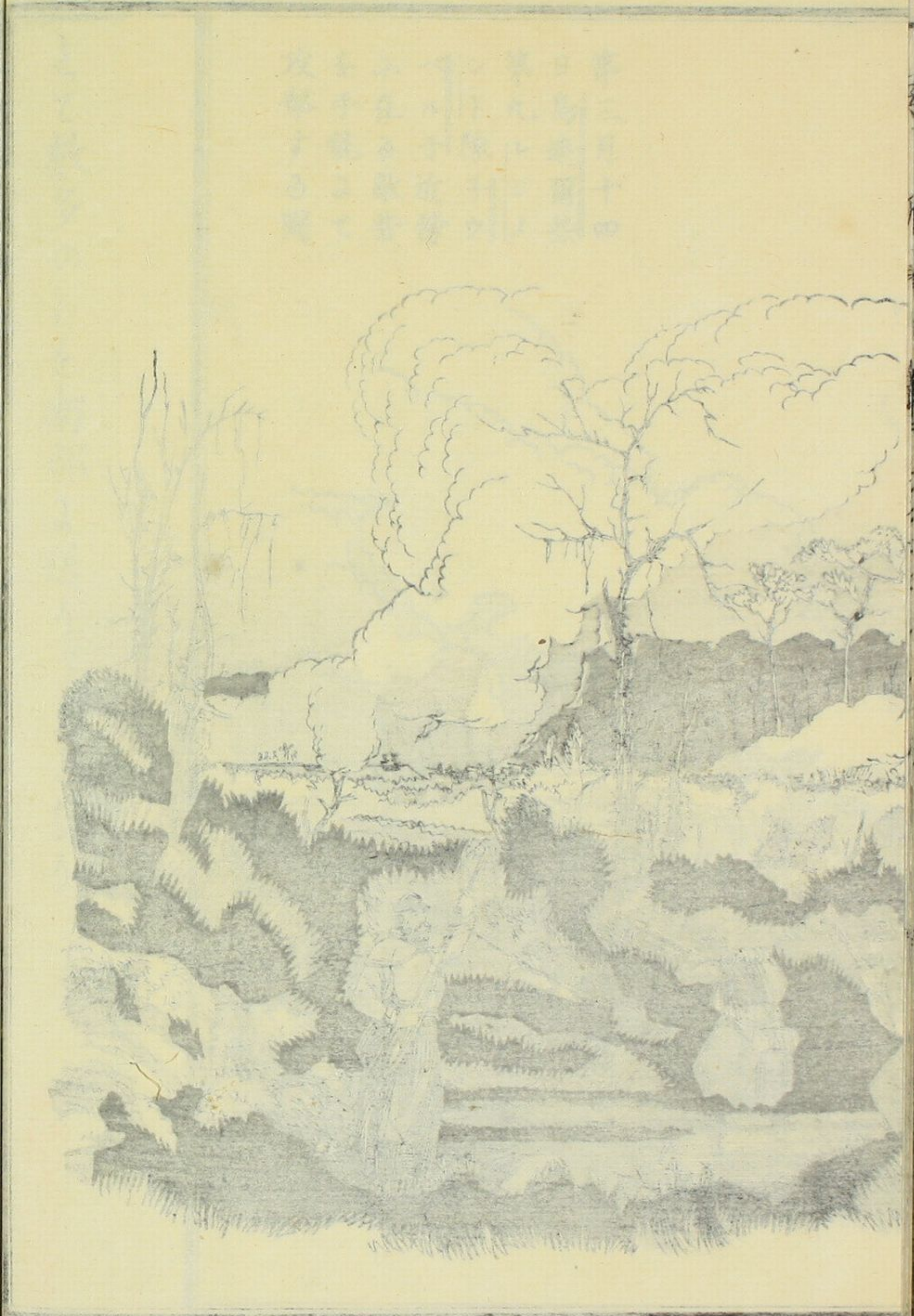
大華寺の圖
 去平野も
 山並る藤葉
 谷の底に
 水の流れ
 日影を
 影三月十四



ニューベル子よて鳥渡爾些の第九レジメントの事

ニューベル子

予等の畫エスケル第三月十四日ニューベル子の敵砦を襲
ひたる鳥渡爾些第九レジメントの最も勇壯なる働を畫き
て予等よ送りたり其圖の有様甚ど愉快なれ予等之を世
間よ知らせるを樂めり之を見る者ローノーク島よて我
勝軍の時も此レジメント交りて甚艱苦せるを思出すべ
クニューベル子の戦も士卒の損失ローノーク島の戦より
大よして討死手負都合六十四人あり右手負の中より
テ
ナントのフランキタライランといふ勇猛なる壯年の鳥渡
爾些人膝を鐵炮よ打抜れ深手を負うとれ予等歎息せり



敵兵の勢衰へたる事

敵兵の諸將勢甚と衰へたり彼等已の企を仕損へたりと思ふを明白かり何とあれむビールカルト甚と難儀ある由を歎書よ認め詞を卑ふして數月の間我よ援兵の士卒を借し給ふべし若久く借す能とされむ九十日の間かりともと西南の地よ云遣せしが彼一言の返答もせざりし又密斯昔比及び程細亞那の鎮臺を軍卒の逃るを恐れて其人別帳を調へ誓をかさしめけるが其叛心あるものと共よ空く働けりカルレストンよりの知らせよ云ふピールを既よカスヒルレの民よ弱年ある男子を募りて密斯昔比河の谷間よ攻入

る道を修復せしめたり又リチモンドの北部を慕へる民を敵軍の有様を見て今敵兵を予等の兵よ圍れて勢甚と衰微せり此時ふ乘して滅さずんむ再び國の患を起すべしと云へり諸も敵の上官前よ眉を焼くの危あるを以て皆恐怖しとるど見へたり且彼の大統領も失望の體よて一言の辭も出さざれど其上官及び徒黨の勢衰へしを驚くべきよあらず予等敵を滅す前よ彼一人も良策を出して此危急を避る能もざらん

此不幸ある一揆を起せし兵卒の中叛心ある者を斯く敵の失望する説を唱へたり又カルレストンの知せしリチモン

トの事を告て云ふ此地の民予等の中よて最も才智勝れ
公會の一人と物語せる時其言よ云ふダヒス其上官及其他
の謀略を改革して此危急よ至らしめたるかり若斯くあら
ずんむ汝等我と和議するの外よ手段あるべうらすとぞ
右諸説も能く過去し事と符合す若叛心ありて未と其色を
顯えさざる者も近と公よ叛逆の色を顯とし其諸將を害す
べし

雜説

予等前の一週中よ出トする新聞紙よ大將ムクレルレン其
軍兵よ勇ましき下知を傳へたるを知告せり此戦以來討死

手負生捕并よ軍器兵糧よ至る迄敵の損失我兵よ比ふれむ
十倍すると明白かるよ今敵兵ビールガルド偽を以て其軍
卒を勵したる證據書を次よ舉げて其偽あるを示す
其文よ云く我民の幸福を守護して他人よ虐せられ恥辱を
受る事を防ん為よ今度察斯昔比軍卒の指揮官よ任せられ
たり因て軍役よ出る者の外民の父母妻子姉妹兒童よ至る
迄安全からしめ且死者の恥を雪くべし
此戦以來士卒の討死し或も手負生捕とありし者其數今大
抵敵と同様かり
予等以後此恥を雪がずんむあらず然れを此敗軍よ士卒も

恐怖せず却て憤激し勇を益さすんぞあらず然る時を襲來
る敵軍を退くるは難きとふらるべし

此軍卒の中は臆して予等の取扱を承知せざる者も其武器
兵糧を勇士に譲り直し己の家を退くべし

予等兵を擧るも正道を叶ひざる事にて上天常し予等を守
護すれども必ず勝を得て凱旋すべし

第三月五日

典捏西グトヒールガルド
テンチン

密斯昔比本陣の軍卒を告ぐ

既しアルカンサスのピーラインにて大將ギルチスに緊し
く撃れし敵方の指揮官マシルゼ子ラルハンストールン南

西軍の指揮官に任せられし時爽やかに辯舌を以て民に
諭せしとあり其中讀者の一笑に堪ゆる事三條あれども爰に
出せり

此度戦争は打負とれを汝ら意中如何よぞや秋風は落る
木の葉の心地して最物淋しく哀れなる旗を建んとする
り又を今より勝誇りて勢猛く勇まじき旗を懸すべき
ローレアナの美女等汝ら今勇氣折れし壯年の男子は嬌
るを勿れ遂に其心を迷として後日の出陣は用立ざる
べし

ローイスヒルレの新聞紙云ふ生捕とふりし敵軍我兵に服

從すべき誓書を出すとも予之を免すを宜しきと思われ
ず若彼等を免さむ必ず南部に逃歸り再び敵軍に入るべし
ポールトローイルより出る言しソートと云へる新聞紙に
ヒルトンへトの事を左の如く記しあり

昨年第九月七日以來ヒルトンへトは一邑を設けたり其
邑よを當今凡一千人ほど質朴なる民居住して其中より
御者大工器械製造者職人新聞紙刊行師軍卒の兵糧商人
飛脚問屋及び日付役人等あり且近頃を此境内に小兒婦
人多く見へたり又斯よ大なる病院厩兵糧奉行の爲なる
倉庫蒸餅焼所黒奴住所其外諸屋を營みて以前とも土地
の様子全く變りたり

港防禦の事

交易所を港内防禦の地とかりて一の上官鐵張船の浮臺場
及び蒸氣ラム船を數多製造する入用金取集の役を申付ら
れたり其入用金を百萬元にて莫大なる事おれども今衆人
此諸具の手當に付妙あることを知りされむ其金容易に集む
べし

日本より増物の事

日本の當萬延大君よりホエーレル及びホルソンの組合よ
り前大君に進上したる美事ある縫道具の返禮として亞國

ミニストルトオニセントハルリスに頼て右の組合は甚と
珍しく且貴むべき數多の品物を贈れり是を種くは彩色し
たる何も長五ヤールドの天鷲子五卷と金銀の綾模様あり
て種々の鳥或は花を畫きたる何も立方一ヤールドの貴き
絹五卷あり但其鳥の中は其色黒して異形ある鳥數十羽
並に奇麗ある牝雞の周圍は牡雞雛の集れる有様を畫き
り今此幟物をクラーホルドの作ふるデンシングセンニー
の華麗ある肖像と共にホエーレル及びタルソン組合の展
觀場飾物としてあれり外國の珍器を見を好める輩を日本
製造の器械を常に探索すべし予等ハルリスの知らせよて

聞たるよ亞國夫人の如く前大君の寡婦を右進上りたる縫
道具を玩りと

北亞墨利加の事と就き英國の説

千八百六十三年は英國と合衆國の間は戦争起るべき説を
述たる後加拿他カナダの防禦の事を著したる箇條の終の卷は左
の事を記せり

北亞墨利加英國領の殖民も今各當時の學業は上達し勇
猛にして堪忍あり歐羅巴の軍率に比すべき勢あり故に
若此殖民初て戦ても愚民を稍勝れる如く見ゆ可しと雖
ども之を以て一兩年軍事は熟練せしめし即ち世界第一

の強兵よ向て已を防くよ足るべし

福落里得鎮臺の事

今北部よ入るフロリダの國政よ就き政府何を思慮する
や予未知らざれ共政府よりエンドローリソンをテン
シーよ鎮臺として送りたる如くよフロリダよ鎮臺を置く
べし予之を考ふるよ其任よ叶ふべき者をホッキンハムス
トよ勝れたる人あるべからず彼を元卓爾治亞の上民ふり
ーガ久しくフロリダよ住居し職務よ勤勞して甚と正忠ふ
る者あり其後一揆の爲よ此國を追退られたりといへども
常よ志を厚ふし其國の恢復を勤めたり又スミト氏を元來

萬民同權の黨よてピールス及びズカナニ國政を執る此

をメキンコ及びメトリドの使節の書記官より

民間新聞紙よ云く近來南部の軍勢を南格阿利納卓爾治亞

福落里得の諸州より起り其指揮官を大將ホントルと云ひ

て其陣所をビューホルドよ在り右ホントルを大將セルメン

を同役とふし士官をして構掘役より更よ善き役を勤め

めんとせり

昨日婆多麥の軍兵二百五十七レシメントの内討死三千九

百九十人但百人を手負とす千八百六十一年第三月下旬の
討死を本隊二十人第六月下旬の討死を本隊三十三人郷勇

四十八人第九月下旬の討死も本隊五十六人郷勇七百四十
九人第十二月下旬の討死も本隊百八人郷勇二千九百七十
人

此頃ロヤル砦の近邊あるモトル島に驚くべき事あり邊西
威業のレジメント隊四十五番組の軍兵敵の番兵を襲んと
て黒奴を案内と爲し共々進みけるゲコルポラール及び甲
比丹イワイラムホ忽ち鐵砲を打殺され其外手を負ひたり
者あり軍兵等を見ても大に驚き敵兵の居所に到れりとして
互に鐵砲を打合けり皆も右兩人も不運の場合に臨むと云
ふべし恐るべき事からずや

官府の記録よ云く耳剛色斯のピーライデは戦争ありし時
南部の討死二百十三人手負九百二十六人出奔百七十四人
又近頃の戦争よ南部の大將及び兵卒とも大に敗北せり此
時其降参四人生捕五人討死四人縊死二人病死一人自殺一
人總て十七人

北部の軍兵も唯三人を失ひたり其一人も大將ライオンと
云ひ戰場よて討死し其一人も大將ランドルと云ひ陣所よ
て病死せり其一人も大ストーンと云ひ狂氣して捕れたり
南部の大統領ダヒスフロイド及びピロウの兩人を

助る事

戦争新聞紙に云くダヒスも其黨のコンダレスを以てフロ
イド及びピロウの報告を申遣し之に添へ別紙を増れり此
別紙によれど全く命を下して右二人の豪傑を助けあり
其文左の如し

予此書を以てド子ルソン砦の敗北せし時請取りしる報告
の寫を贈れり

此報告の中疑しき個條あれを之を糺さんとて上官に申付
しり

去あがら新兵を乞ひ又陣所を引拂ひて軍兵を退くるに能
かず又計を設けて防禦の士官を呼戻さんとせり又老大将

より若年の士官に申含めて已ぐ企を掩ひしる此四個條も
證據あきを以て如何とも決しりしり

予既よコンダレスと相談をかりド子ルソン砦に於て兩人
の罪科裁許の事を延引せしる此度の報告分明からざるを
以て予殆ど當惑せり然る時若や裁許の違あらんとを恐
れ二人の老大将と評議して命を下し彼等兩人を助くべし
千八百六十二年第三月十一日南部政府よて書す

ゼフルソンダヒス自記

會議館の上官へ

南部の新聞中レンレンナチの報告に云く總裁鎮臺及び裁

判の助役を兼ねたる典控西レバノンの大将ウレムカムブルと云へる者此度國を分裂する惡計を拒みて更よ心を變ぜず然れとも其軍兵之ふ加たる者ありけれを頗よ之を留めとり時よ篤實ふる其母の云ひけるよウレムよ汝若恙なく墨西哥より歸來らむ予よ於て満足よ思へり且典控西の總裁よ昇進するも亦然りされど予よ生涯の中汝當時の役目を精勤して今の心を變せざること最も予の願なり

メムヒスの報告よフロイドの罪の赦免願よ就きリチモン

トの給金一條及び左の事を記せり偕フロイトを愚直あるのみならず臆病者の如く戰場より逃出して已の警固せる

若を明渡さんと取極めしを實よ恥づべきの事ならずや且此度戦争の功績よ加もらざる事面目を失ふと云ふべし去るよ因てヒロウも大よ力を落して其役目をも忘却し唯自身の事のみ思出して其名譽さへも穢すは至れり然れどもフロイドも費爾治尼亞の一賢人あるを以て此度の行跡を改めしかれを其罪を免し給えんことを乞ふ予等曾て此人より事のあるを見ず唯ロルドボク子ルの卑怯あるを見よ忍びずと又南西部の敵兵もフロイドの配下よ就きリチモントの組合をヒロウの加勢を爲せり故よりチモントの報告よ云くド子ルノ若を明渡せるとも取極めし其證

書の文面を悉く虚言かりされど實事の如くからざれと信する者ふきを以て斯くを認めしかり是全く證書に偽を飾れる者と云ふべし其文面を見て猥に臆説を吐く者あらざれば嚴しく之を説破るべし

卓爾治亞のホルトを本月十日以來更に新規の事を取用ひず其黨のユングレスと會議を爲し國民の心を引立べき策を建んとせり然るに諸人等男める者なく其武器の用意を爲ざれを鎮臺より鍛冶職に申付鎗及び刀二萬本を鍛へむる觸書を出せり去るより卓爾治亞人を各其取斗に感服して俄に勇氣を興せるとぞ

又理治門的の報告中にて敵兵の規則を見されを抜出して左に示す諸大將セイジントン軍隊を行ふの法を設くると甚に嚴重にして格別ふる者とす先出陣の前は各甲比丹其兵隊に關する長官の名を讀上げ且陣所は歸りても再び之を讀上ぐべし又手負人及び遠方より居る者の外は大将自身其兵卒の臆病等を穿鑿すべし又合戦最中其場より手負人を連歸ることを許さず又猥に後陣に行く者も其長官之を打殺すべし

○ポンド道を奪へる事

コムブルラント山は二つの街道あり一をゴムブルラント道

と云ひ東典^ト西^ニ達^ス一^をポンド道と云ひてコムブルラ
ント山^ニ達^ス此ポント道^も此度ブレストンビルグの大
將ガルヒールドの奪へる所^{なり}近來此道を警固せる五千
人の敵兵もホムフリーマルサルの配下^{より}て大^に勝誇り
たる軍兵^{あり}大將ガルヒールド^も少も恐れず其歩兵を
して間道より行^きめ騎兵を悉く本道より進ま^しめて其
山^に駈登り敵の前面を劇^{しく}攻めて山頂の傍^に至り咫尺
を隔て戦ひ^{たり}折^{しも}歩兵山背より俄^に襲ひ掛れ^を敵兵
忽ち隊伍を亂^し諸具を捨て逃去りける時^はガルヒールド^も
勝^を乘^りたる兵士と共に費爾治尼亞^に入^り込み六里許^{より}て

再び敵兵^に迫り劇^{しく}戦ひて之を追散せり而^{して}陣所の
宿割を爲^し其後市中の軍卒小屋六十軒を焼拂^{へり}ウ^ルる
大功を成^せも全く大將ガルヒールドの兵法^に熟練せる
故^{ふれ}と且血戦^にあ^らざれ^む此大功を得る^に能^{はず}

耳剛色斯のサレムの大戦の事

前日^然疏理^は在^る敵兵の得^人を襲^むんとて我大將ホ^ー
^ラキ^ン其軍兵を五隊^に分ちてコロ子ルウ^{ード}の支配せる二
隊より大砲六發を打掛け其近邊^に進みて四方を見る^に敵
兵一人も居^らざり^し夫より耳剛色斯の^ヲルトン^に攻^め寄せ
て敵兵の大軍^に襲^れ彼忽ち隊伍を亂^{して}大^に敗北^せ

り此時敵の討死殆と百人生捕枚擧ーグとー且大將三人を
擒よせり第三月十八日レントロイスより出せー大將ホー
レキの秘書官スタントンよ贈れる書翰よ云くコロ子ルウ
ードマギルタルクの支配せる黙疏理及びヨワの第六番騎
兵の敵兵よ使せー時二百四十人の同勢よてサレムの近邊
よ在る敵のコロ子ルウコーレメンウードサイヅムクハルラ
ンドの配下一千人の軍勢を襲ふて互よ劇しく戦ひーウ
トサイツの配下よ數多の死傷ありて敵兵大よ敗北せり此
時敵の死傷凡百人生捕數を知らず味方の死傷を合せて十
五人ふりーとぞ

海戦よて敵船を奪取とる事

我小船備への軍勢を其市中の敵軍を圍める爲よ設けとり
ーグ日くよ種々の敵船を奪取りて古今稀なる大功を顯を
ーとり此時紐子ウフル連レニスアンスより出とる北部の子ウロンドンと
云へる蒸氣船よて敵の小スクー子ル船十二艘を奪ひ且數
多の水夫を捕へとり其外生捕數を知らず尤其人々を何卒
生命を助け給へとて只管申出るよより悉く之を救ーとり
但内七人を救ーとるとき故ありてナイガラと云へる船よ載
せ紐呵連ニスよ送らるべー

第三月五日福落里得西岸のアンドリウ灣より出帆せー北

海夕新聞別冊
部のワートルウツチと云へる蒸氣船をハハナより出帆せ
るモバイルのスクー子ル船を奪ひさり此船を百八噸積よ
て相應の荷物を載せたり

第二月二十五日北部のキンハイルと云へる軍艦をロイン
アナ海岸より凡二百里南の海灣よて英國のスクー子ル船
を襲むんとて三日三夜之を追廻し四百二十里の遠よ至る
迄三度之を見失ひしが遂よ之を探出して彈丸四發を打掛
け怒ち之を奪取れり此軍艦を元とアレキサンドルと云へ
る軍艦の如く大よ猛威を振むんとて一名をパルクルシフ
ルの獅子と號し本月二十一日ハハナより出帆せしものな
り

新墨西哥戦争の事

近來の墨西哥新聞よて第二月二十一日クレীগ砦の戦争
を詳うよ知れり其中よ國民を討死六十三人手負百四十人
と云へりコロ子ルスチールを得撤人を率ひてクレীগ砦
より北三十八里のソニールスよ屯せりコロ子ルカンバイ
の配下をクレীগ砦を本陣とふして皆此よ集れり又敵方
よ與せるとの疑を以て數多の役人を擊殺せり又本月二日
四百五十人の得撤人騎兵二隊を率ひてアルホケルキよ入
込けれをサンタヒの本領を支配せるマギルポル子ソニ此

地を立退きて本月四日ユナイオン砦に落行きたりされど
此砦を最堅固にして且軍兵一千人の備へあれを遂に敵を
防きとり又コロ子ルカンバイを千二百人の軍隊及び墨西
哥の郷勇を率ひて猶クレীগ砦に止まれり

サンタビの報告に云く甲比丹メレーの砲臺をも本隊郷勇
各二隊を備へて之を警固せしが兵糧の乏しきを以てクレ
ীগ砦戦争の時遂に奪取られたり此時得撤人若コロ子ル
ガンバイの計を用ひずして味方より撃て出てをうゝる患
を有べうらず又云く甲比丹ロルドの配下ある騎兵歩兵の
兩隊に敵を襲ふの命令を下しけるが一も之を聴く者ある

り

英犬を所望せる事

善き犬五十番を乞ふ一番毎に五元を拂ふべし又人の跡を
慕ふて行く英犬を一番毎に五十元を拂ふべし皆此犬を所
望せるを林礮配下の東曲捏西及び建德基の卑怯なる賊兵
として姦計を以て善人を打殺し且之を捕れり予等之を狩
盡さんとする故かり來第十二月十日より甲比丹ハムムル
此犬を犬部屋に送りて別人改の役人より之を改めしむべし
但犬飼一人の給金を毎月二十元を拂ふべし

フンハムクリツ 自記

典捏西カムブルのクリンホルト陣所へ

○メムヒスの騒動及び敵を襲へる事

敵軍の備を總て見越し均しくしてメムヒスの如く軍事の能く整ひたるをふしされど近頃の敵兵皆典捏西よ足を止めけれども都下の人々大に恐れ其騒動一方ならず又諸方より觸書を出して既よ奪取られざる地面を取戻さんとせり故よ此地の諸長官大評議を爲し先都下の諸人を勝手よ立退しめてより悉く焼拂ふべしと決定せり是よ因て其殖民等大に望を失ひ大半四方よ離散せり斯く騒動の起れる中よ敵兵の注進來りて呵海呵及び邊西威業の變事を聞け

り又マカサスポーリンクリーン及び戈倫堡よ於ては敵兵の諸砦を打敗りて其軍勢を追拂ひり然れども敵兵猶盛んよしてモバイル紐呵連尼斯および阿拉巴麻の諸軍卒其外敵兵等ゴフルワルドよ攻來れり又敵兵の註進已よチカゴ及び紐約へも到來せり偕も恐るべき事からずや當時の人々互に戰を交へ罪なき人を召捕へり而して其成行も知れざれを實に當惑せり予等敵方よても其生捕の人々を全く赦免する能もされを束縛して紐約又をチカゴよ送らんとを望めり

敵方新聞の書抜左の如し南部の軍兵を次第に怒を増して

最早一切の愚論を用ひず然るを北部の臆病者類は我を責めて難問せしむ唯嘲哂して取用ひず抑北部の軍兵も我國無罪の人民を猥に殺戮せるを以て捨置きがごとし此仇を報ゆるも我掌の上は在り邊西威業を襲ひ費拉地費を欺きとるを以て瑪理蘭及び費爾治尼亞を今我有とふらざるべし又北西部を侵しマソラントを攻めたるふ因て黙疏理をよび建德基も我兵よ従わざるべし又我兵をイレリノイス音地亞^{インヂアナ}及び呵海呵^{ホホホ}より蜂起して諸方を押領せしむ一旦も本國防禦の爲め餘義なく故郷へ引退きしより斯の如くふれとも是より我軍兵の野陣を張ると恰も春の

來るう如く勢増盛んよして忽ち北部の兵士等を費爾治尼亞及び建德基より追拂えん且我兵よも勝利の萌あるを以て北部を撃破らんと容易なるべし先北部の都邑を奪取り或も之を焼拂ひて其軍兵悉く散亂せしめ其諸州をも奪ふべし且北部よても嚴しく國民は軍用金を申付しり故よ此度之を赦免せしめ其國民等服従すべし況や我軍兵も勢増盛んよして少も恐るゝ色なく其も敗北せしめて出陣せり嘗て歴山拿破侖の施せる兵法を用ひて劇しく敵國へ攻入り猛威を振ひて血戦し北部の權勢を失せしむべし而して南部も獨立不羈とあり或もチカゴよて大平を唱ふる迄も讐敵

ある北部を攻め非道の人及び臆病者を誅戮し且軍兵を海岸へ廻して大西洋より大南海に到る迄悉く悪徒を逐退け又東西の敵を撃破り我兵の勝を得て凱旋する迄も飽まで敵を攻立べし

ツリボーンと云へる新聞に醫師ナルレスマケークゼフルソンドヒスの使節として紐約に來れりと云ふを全く誤なり

マソンの兵を談ずる事

マソン云く英國政府より評議役と與べし敵地圍みの事を認めしる書を既に此策を用ひしる由を記せる者あり其中

紐阿連尼斯より到來せる記録は密斯昔比河を上下せる蒸氣船并に其水灣および河口を往來せる小舟の號を載せしり故に此書を其地を圍める策の一助と云ふべし然れども千八百六十二年第二月十五日イールセルよりロルドライオンに與へしる急狀を見るに此説を全く良策とも思われし

軍中新條目の事

左に掲ぐる書付も軍の條目中に加ふ可き者にて大將の爲に設けしるは是にコンダレスの撰べるに於て既に大統領の免許を受けしるを今之を法律として合衆國の軍務に關する

諸士官並に諸人より示せり其文より云く軍務を為せる者の組合は其勤を捨て出奔せる者ありとも之を捕へんとて各配下の軍兵を用ゆるにふられ若士官此法より背き大將の評議を受け罪ある者も軍務の列を離くべし

戦争新聞より云く南嶺番奪のビーフォルトにて賣奴其國の入口

サフアンナ

口ふるロイヤルを警固せし大砲隊の働を勇ましく語りけり此時大將タラインをビーフォルトを堅固に防禦せしめんとて晝食の時兵卒三十人或も四十人宛馳走を爲して各休息せしめたり故に兵卒も勇氣を振んとて酒を呑み或も話杯して各氣力を養へり時大將妻子より向て云く此國も患

ふるよふきを以て親族と共に安全あるに疑ふも又船隊其港中より來り時沈没せる船あり之を見物せんとして諸人馬上或も乗物より其海邊に群集せり賣奴云く其沈没せる軍船を初大砲より其荷物を目的に打掛け焼打せんとしりけるが其效おけれを終に破裂丸より打破れり

默疏理の新聞より云く國民を集むる旗印を揚げし時諸民皆典押匹の川を渡りて速に來着せり

建德基の法蘭富より第二月十九日の日付より書翰を敵方

フランキオルト

に贈れり

其文より曰く予惡筆おれども汝より一事を言贈らんとて筆

を採れり當今典控西に在るド子ルソシ砦の如く通路を
開きとれと後日書翰往復の爲に甚ど便利なりとす故に
之を汝が連中へ告知せんを願ふ

又新聞を著述せるズワインなる者を戦功ありてレジメン
トの指揮官とかりしが終にコロ子ルの官に轉役せりされ
ど不幸よりして近眼おれもズワイン第二モルトギンスマツ
及騎兵隊に向ひ予壯健ならざるを以て此度の軍務に關ら
らずと語りけりタライボンより差越せる書翰中にも其壯
健ならざるを却て幸と爲るべき兆ある由を記せり

右騎兵隊の者互に評論したる由并にズワインのコロル子
官を得たるに最肝要なる趣を次示せり

コロ子ルズワイン最近眼おれを已む乗れる馬の頭或を佩
たる劍も見へざりし然れども他の軍卒を率ゆるコロ子ル
と共に死を決し勇ましく軍隊を整へて進みたり此時共に
出陣せる他のコロ子ルを大に損失ありとぞ猶此外ズワイ
ンの勇ましくき働あれど擧て數へ難けれを畧せり
ゼフルソシダヒス味方の國を固守られんとせし時ロイ
スヒルレのテモカエトも既に兵士を率て其國を能警固せ
り
シシシシ高貴の事し付往復せる書翰もホシロトシ

ソンの事よ係れり去十四日の早朝大將ランソン軍隊よ下
知して劇しく接戦せり此時ランソンも己の兵士を率ひて
敵將の防禦せる場所を二方より襲ふて終よ之を撃破れり
故よ甲比丹モールメン一杯の茄菲を自ら吞ずして先大將
ランソンよ與へけれをランソン之を吞で又兵士よ與へり
日曜日よ出板せる華盛頓新聞よ云くヲルフヒースセケル
ルナボレオン及メクレアンを大將と爲して優劣を評議せ
り此時ブリゲードの大將をメクレアンを大よ好めり何と
かれを彼を婆多麥より老兵を以て襲へる時劇しく戦へり
とあり

又オルフヒースセケルルを甲比丹よ誓を為せる事よ就き
簡畧ある趣を説明せり其言よ云く下キを敵の不意よ襲へ
るを防きて遂よ之を撃破れり又一日よ一度宛已が戦よ用
ゆる兵器を改め三秒時毎よ川を渡り晝食の前よを敵と味
方の様子を考へ陣を取るよを常よ露深き處を好めり且眠
ると甚小時あり一他の大將も之を善と一其兵卒等を集め
て此由を言聞ざり
種々の事より一揆の起り一時寺中或を橋よ蒸氣車の道を
造るよを免せり

理治門的の新聞よローノーク島の役よ係る事を記し予を

してホフウフリーの拔羣ふる働の由を知らしめたり其時
戦争の劇しきは因りマシールフリーをバタイロンを率ひて
ローノーク島よ渡り直よ上陸して大よ喜び兵士よ向て諸
人等戦争の事よ就き旅行或も渡海せる警固の為多くの士
卒を伴んと願へるも當然ふる旨を語れり此時敵兵をマシ
ール此島よ上陸すると聞て大よ畏れ二時間再び軍勢を退け
たり因てマシールを兵士と共に其器入用の金高を調たりと
ぞ蓋此度の一揆を建德基かよび黙疏理互よ力を合せしよ
て最も堅固おれむ攻るとよ一決せざりし
ギリインを己が陣取する前よ敵兵を其陣屋より追散さん

とせしうむ却て敵兵よ撃破られ大よ兵士を損とり此戦
争よむギリイン幸よ此所を逃れけるが其後人の諫を聴ず
して攻撃の爲よ渡海し大難よ逢へるとぞ

敵地圍みの事

亞墨利加よて圍みの策を第三月七日英國下院よてグレゴ
リの説より起れり其助役をリンドセイベンチンキヘルム
ソンふりミル予ス及びソリキトゼ子ラール其他の人々之
よ返書を贈りてグレゴリの説を拒めり又ホストルをベン
チンキよ返書を贈り其策の無益ふるを説明せり其文よ
云くマソン三百艘の軍船を率ひて其策を施せしが多くと

暗夜又も大風雨に妨げられて用立者僅かりされども此策を
施すより寧ろ劇しく攻立るゝ如くも無し且昔時英國と亞
國と戦争の時其諸港を奪もんとて五百餘艘の軍艦を差向
とりーが其策利あらず然れども英國政府の堪忍強く且艦
ふる取斗を以て斯の如き大合戦ありても英國を警衛する
に足るとも賞すべき事あり尤其戦争も是迄英國の存亡に
係る大合戦の一とす

ペンサゴラを取戻せる事

予等ペンサゴラも既に敵兵の手より落とりと南部の人より
聞きとりーが此頃第三月八日より出る卓爾治亞アタランタ

の報告を見るよえパンムキも劇き戦争あるを以てマ
サスより軍兵を呼戻せーが味方の血戦も由て科倫布亞の
如く既に奪もれとるペサンゴラを復取戻せり

海外書目類

發閱目錄

舶來書籍類

官版原書類

同翻譯書類

老皂館

東都豎川三之橋

萬屋兵四郎

